IMV株式会社

決算説明資料

2026年9月期

2026年11月

Index

1. 2026年9月期決算サマリー

2. 各種の取り組み

3. Appendix

© IMV Inc.

Index

1. 2026年9月期決算サマリー
2. 各種の取り組み
3. Appendix

© IMV Inc.

決算サマリー

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・売上高・利益の両面において6期連続で過去最高を更新
・装置の大型化やサービス比率の上昇で収益性が向上、27/9期も同様の傾向が続く見通し

売上高

前期比 +17.2%

21,019百万円

営業利益

前期比 +21.7%

2,818百万円

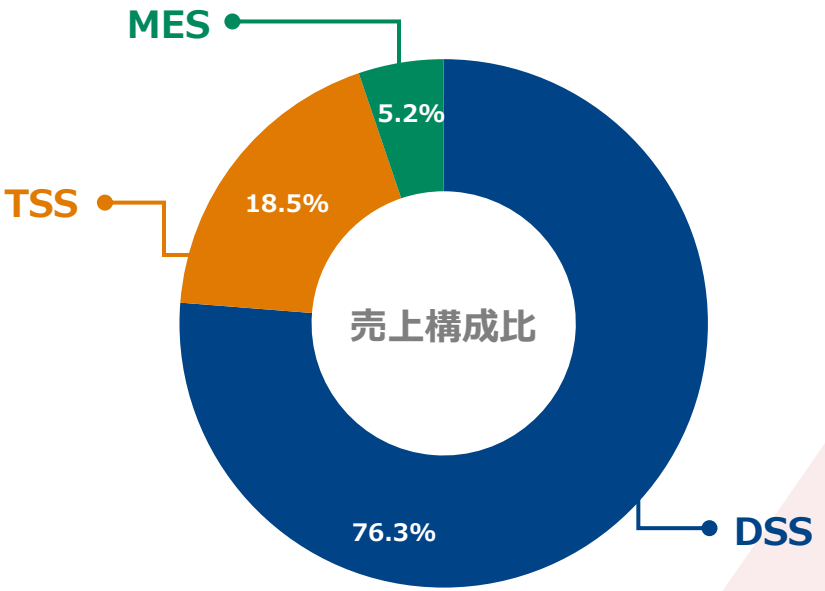
EBITDA

前期比 +19.6%

3,578百万円

事業別売上	25年9月期	26年9月期	前期比
DSS 振動シミュレーションシステム	13,021	16,027	+23.1%
TSS テスト&ソリューションサービス	3,687	3,896	+5.7%
MES メジャリングシステム	1,232	1,095	△11.1%

（単位：百万円）



© IMV Inc.

トピックス（事業）

JAXA振動試験設備の更新案件を受注



国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）が保有する国内最大級の大型振動試験設備の更新案件を、主契約者である三菱重工機械システム株式会社より受注した。本案件は既存の振動試験設備を構成する電力増幅器（アンプ）、システム制御部および振動制御部を更新する大型案件で、振動制御部には、当社製の振動制御器「K2+」を採用する。当社が振動試験の専門メーカーとして培ってきた高度な設計能力と製造・技術力、そして設備全体を最適に統合・運用保守できる総合力が評価され、受注に至った。なお、売上計上は28/9期を予定。

画像：©宇宙航空研究開発機構

Element社と振動試験装置の包括契約を締結



世界各国で試験・検査・認証サービスを展開する米国のElement社と包括的な契約を締結した。契約期間は26年5月から3年間で、振動試験装置の安定供給とサービス・メンテナンスを含む包括的なサポート体制を提供する。同社を訪れる主要顧客への販売促進効果にも期待ができる。

「令和8年度産業標準化事業表彰」を受賞



MES事業本部防災事業BUの奥田泰弘が、経済産業省の「令和8年度産業標準化事業表彰」において、イノベーション・環境局長表彰（産業標準化奨励者表彰）を受賞した。地震計システムを防災に活用するための国際規格「ISO37174:2024」「ISO37194」のプロジェクトリーダーを務め、 策定・普及活動へ貢献したことが評価された。

© IMV Inc.

決算概要（連結）①

・売上高の増加と原価率の低下を背景に営業利益率は13.9%に向上
・EPSも引き続き上昇し、前年同期比+12.97円

	25年9月期	**26年9月期**	増減	
売上高 (百万円)	17,941	**21,019**	+3,078	売上高 (+) 国内外でDSSが好調 (+) TSSは下期不調も、通期では前期比増 (−) MESは前期比減収 利益 (+) 粗利率の高い案件の増加 (+) サービス売上の伸長 (−) 一部部材の高騰 (−) 人的資本に関する投資増加 (−) 為替差益は前期△184百万円
営業利益 (百万円)	2,315	**2,818**	+502	
営業利益率 (%)	12.9%	**13.4%**	+0.5pt	
経常利益 (百万円)	2,569	**2,911**	+341	
経常利益率 (%)	14.3%	**13.9%**	△0.4pt	
当期純利益 (百万円)	1,935	**2,145**	+209	
当期純利益率 (%)	10.8%	**10.2%**	△0.6pt	
EPS (1株当たり当期純利益) (円)	121.68	**134.65**	+12.97	
ROE	17.5%	**16.8%**	△0.7pt	

（単位：百万円）

© IMV Inc.

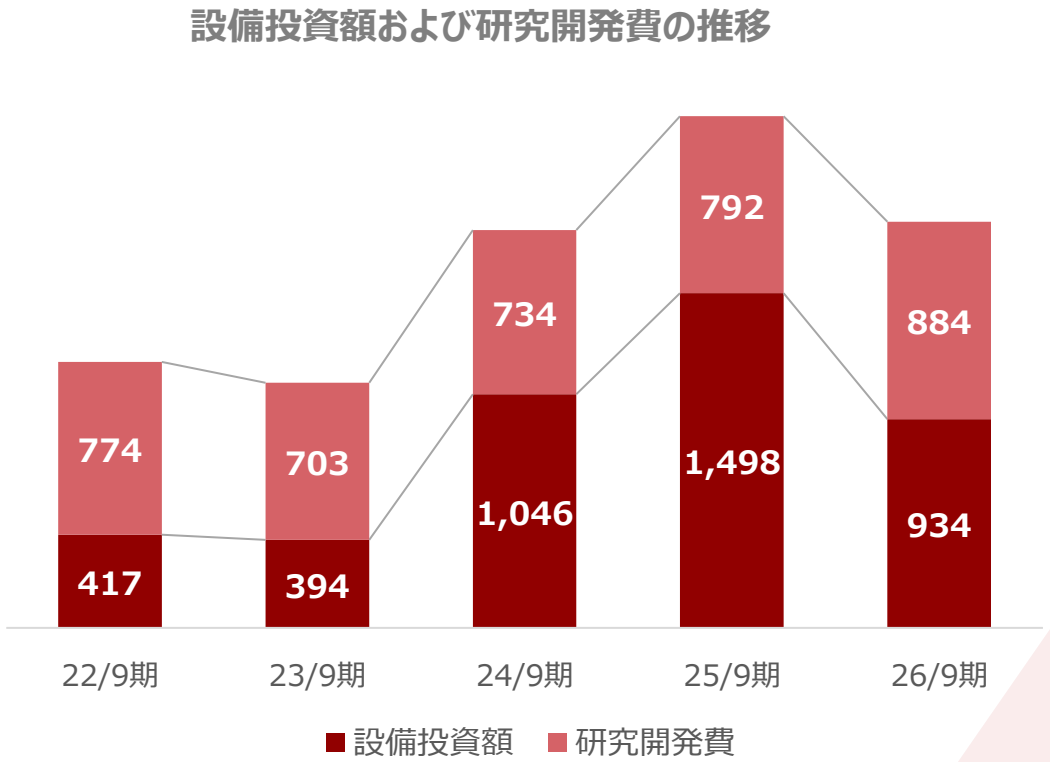
決算概要（連結）②

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・今後の大型投資を見据え、26/9期は設備投資が一服
・前年の設備投資の結果、減価償却費が12%増

	25/9期	26/9期	増減
設備投資額 (百万円)	1,498	**934**	△564
減価償却費 (百万円)	676	**759**	+83
研究開発費 (百万円)	792	**884**	+91
期末株価 (円)	1,862	**2,118**	+256
期末時価総額 (自己株式を除く) (百万円)	29,628	**33,766**	+4,137

(単位：百万円)

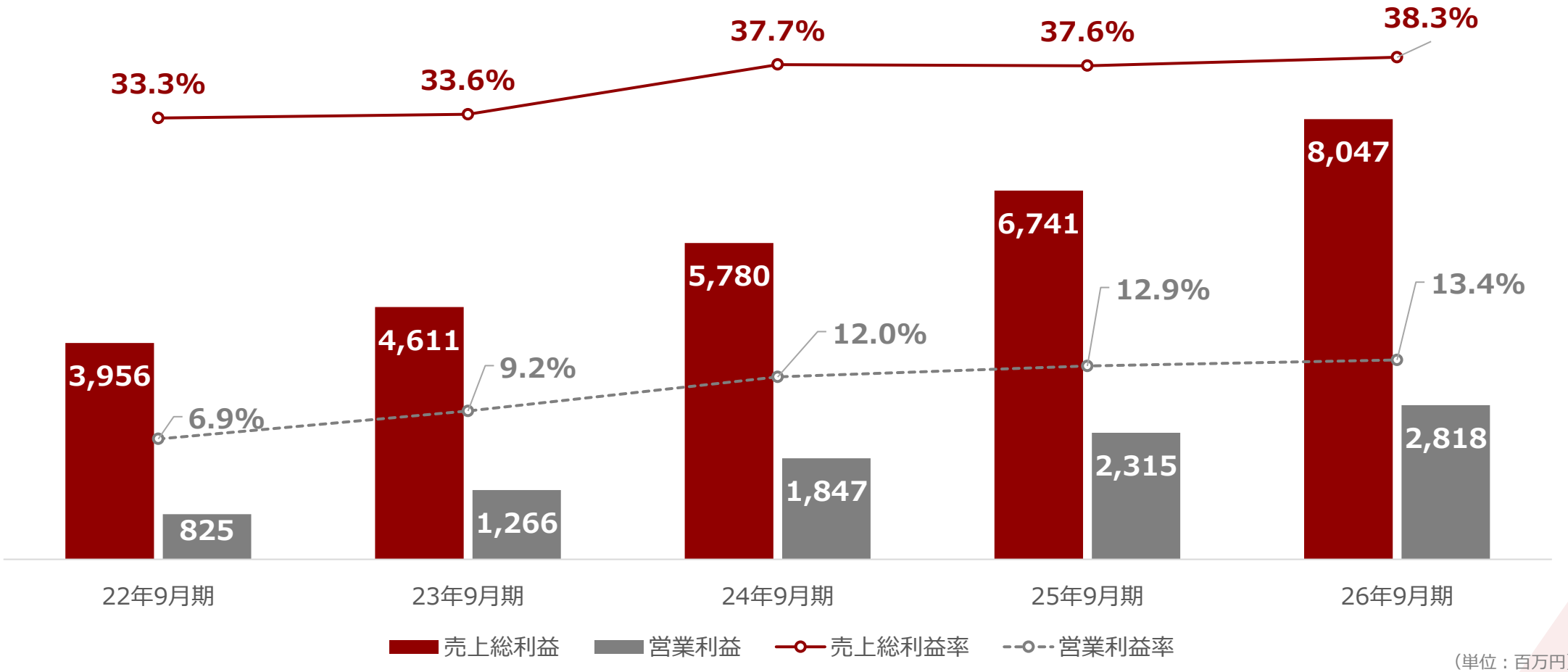


© IMV Inc.

売上総利益および営業利益の推移

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・国内案件比率を維持、海外案件でも利益率の良い案件が増加し、全体の利益率も向上



（単位：百万円）

© IMV Inc.

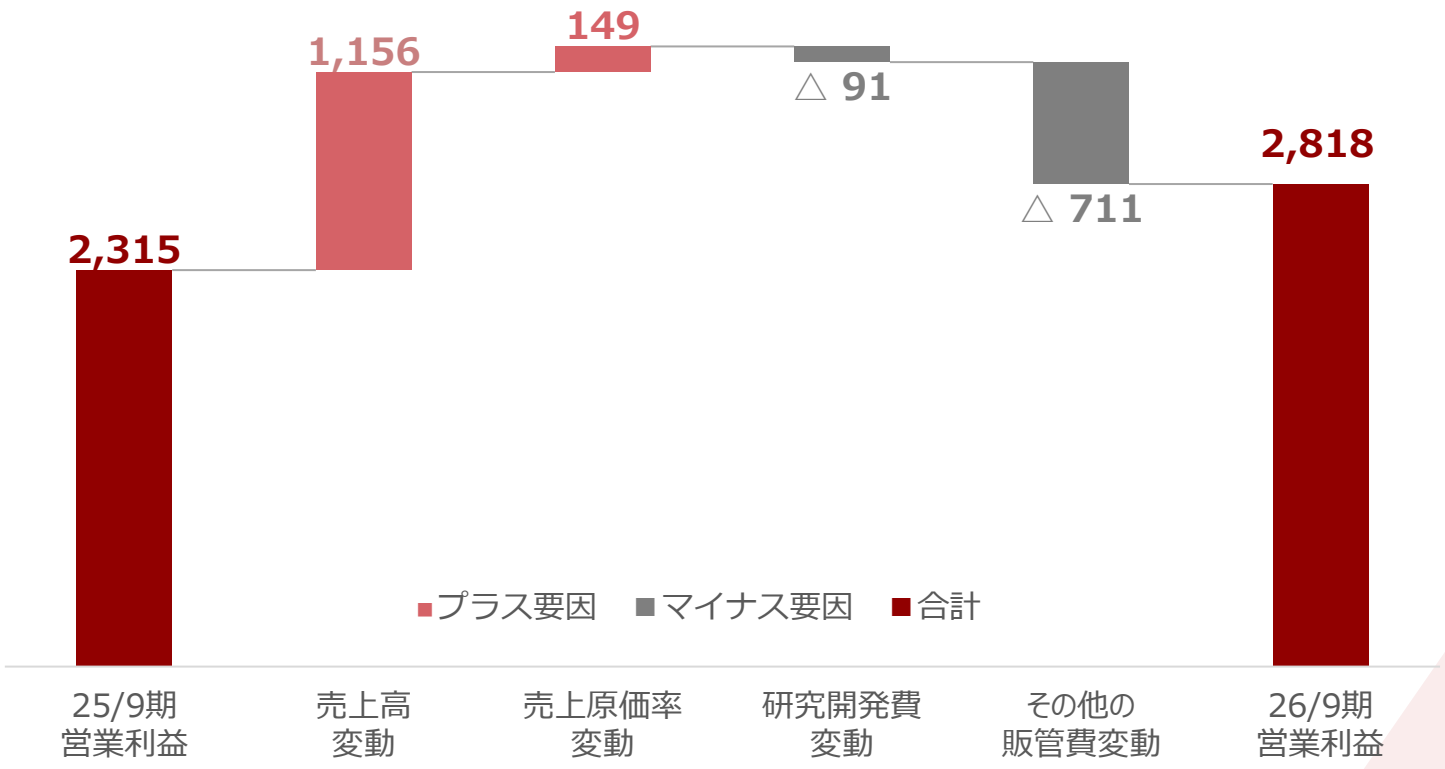
営業利益増減要因

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・増収効果が販管費の上昇を上回ることで営業利益が増加
・販管費は増収に伴う適正な範囲内での上昇

25/9期 営業利益	2,315
売上高変動による影響	+1,156
売上原価率変動による影響	+149
研究開発費変動による影響	△91
その他の販管費変動による影響	△711
26/9期 営業利益	2,818

（単位：百万円）

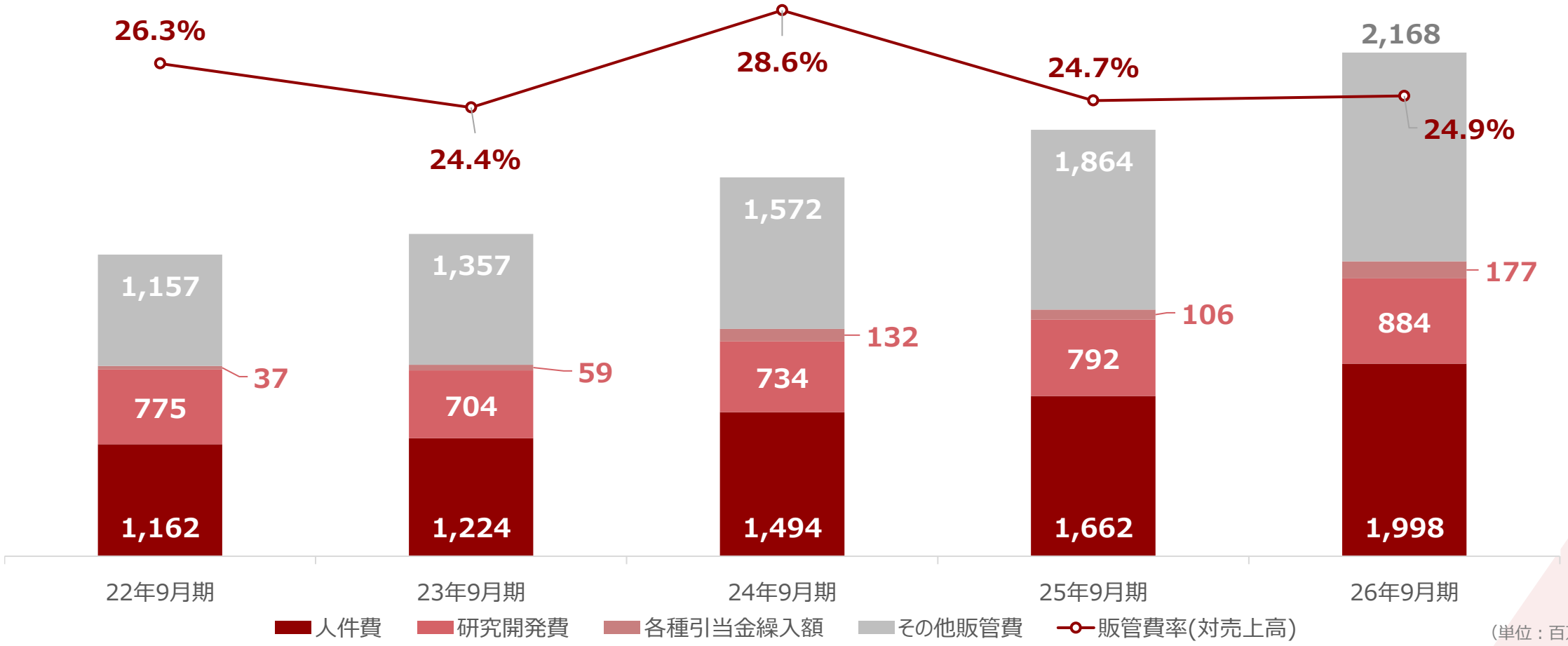


© IMV Inc.

販売費及び一般管理費の内訳

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・売上の増加に伴い販売費が増加するも、販管費の売上高に占める割合は前期並みを維持



(単位：百万円)

© IMV Inc.

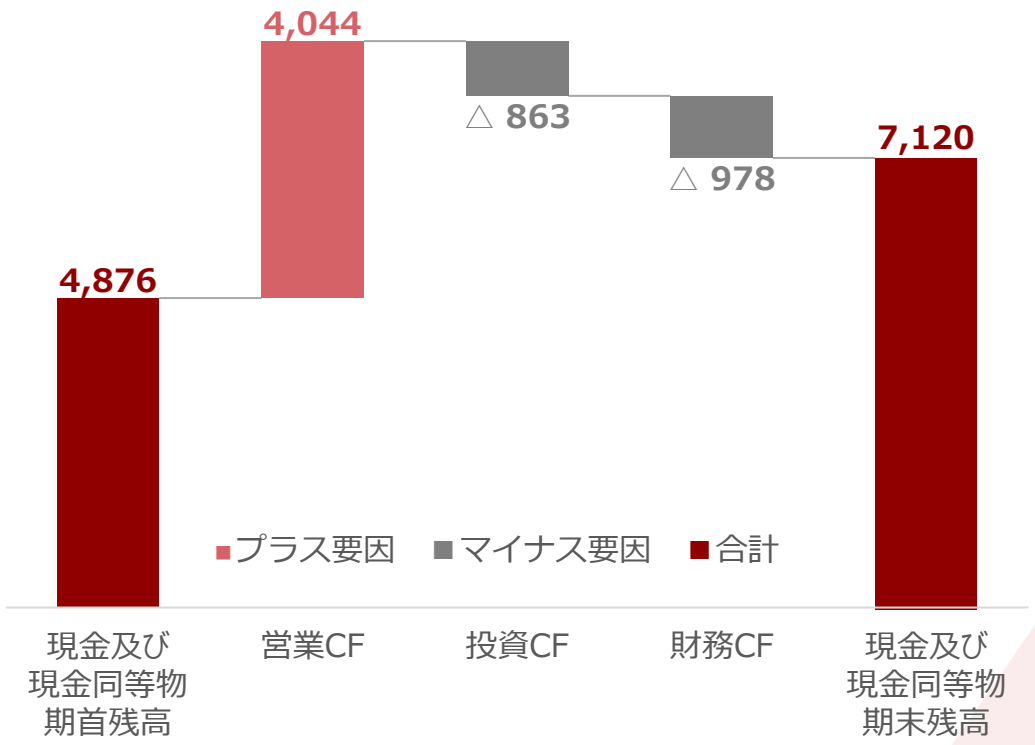
キャッシュフローおよび資本の状況

・自己資本比率が改善、今後の大型投資に備える
・現金及び現金同等物残高が大幅増も、これには前受金も含まれる

	25/9期	**26/9期**	増減
営業キャッシュ・フロー	3,848	**4,044**	+196
フリー・キャッシュ・フロー	2,646	**3,181**	+535
現金及び現金同等物残高	4,876	**7,120**	+2,243
自己資本	11,884	**13,707**	+1,823
自己資本比率	51.0%	**54.0%**	+3.0Pt

（単位：百万円）

キャッシュフローの推移



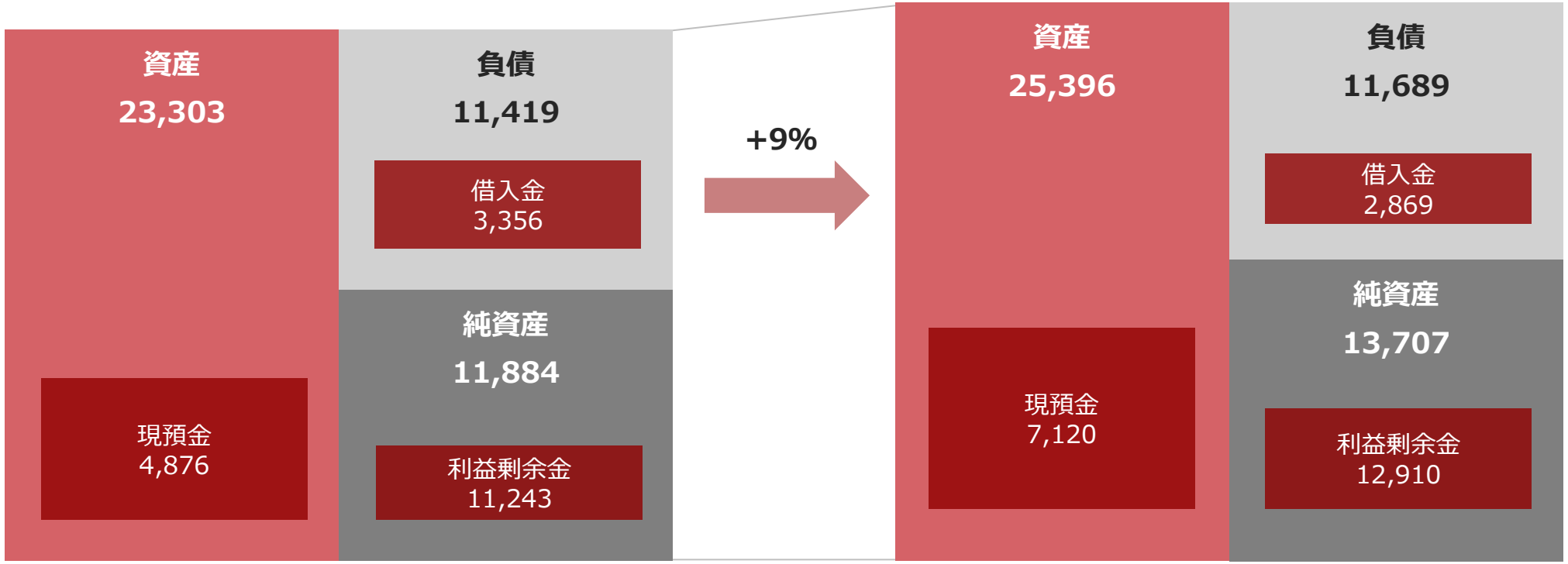
＊差額は現金及び現金同等物に係る換算差額

© IMV Inc.

資産の状況

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・借入金の比率は低率を維持し、財務健全性は良好
・B/S全体のサイズは前期比+9.0%



25年9月期　　26年9月期

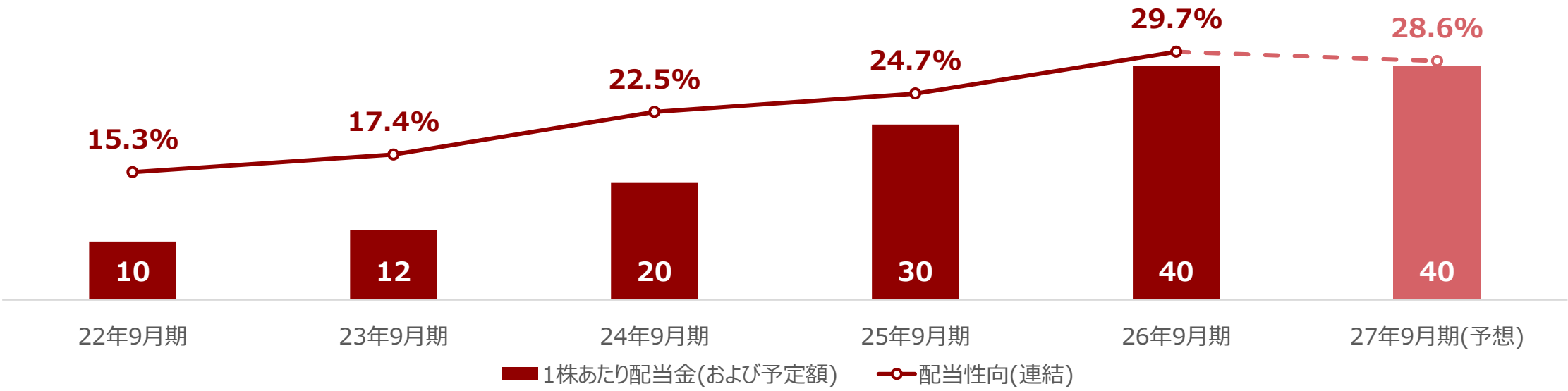
（単位：百万円）

© IMV Inc.

配当金および配当性向

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・収益額を顧み、配当金を40.0円に変更
・27/9期以降も、利益と連動した株主還元方針を継続



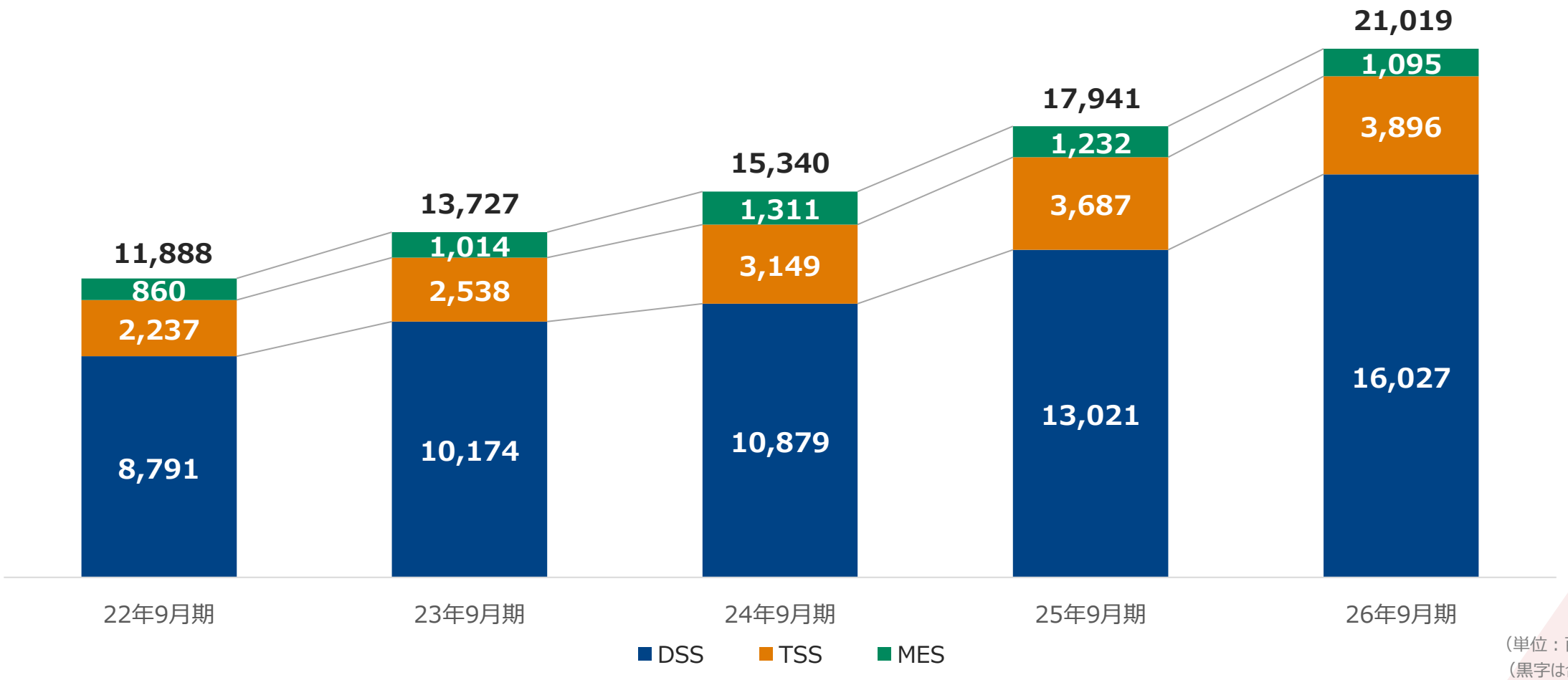
	22年9月期	23年9月期	24年9月期	25年9月期	**26年9月期**	27年9月期(予想)
1株あたり配当金(および予定額) (円)	10	12	20	30	**40**	40
EPS(1株当たり当期純利益) (円)	65.42	69.11	88.75	121.68	**134.65**	140.03
配当性向(連結) (%)	15.3	17.4	22.5	24.7	**29.7**	28.6

© IMV Inc.

事業別 売上高推移

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・DSSの売上伸長が全体を牽引し大幅な増収



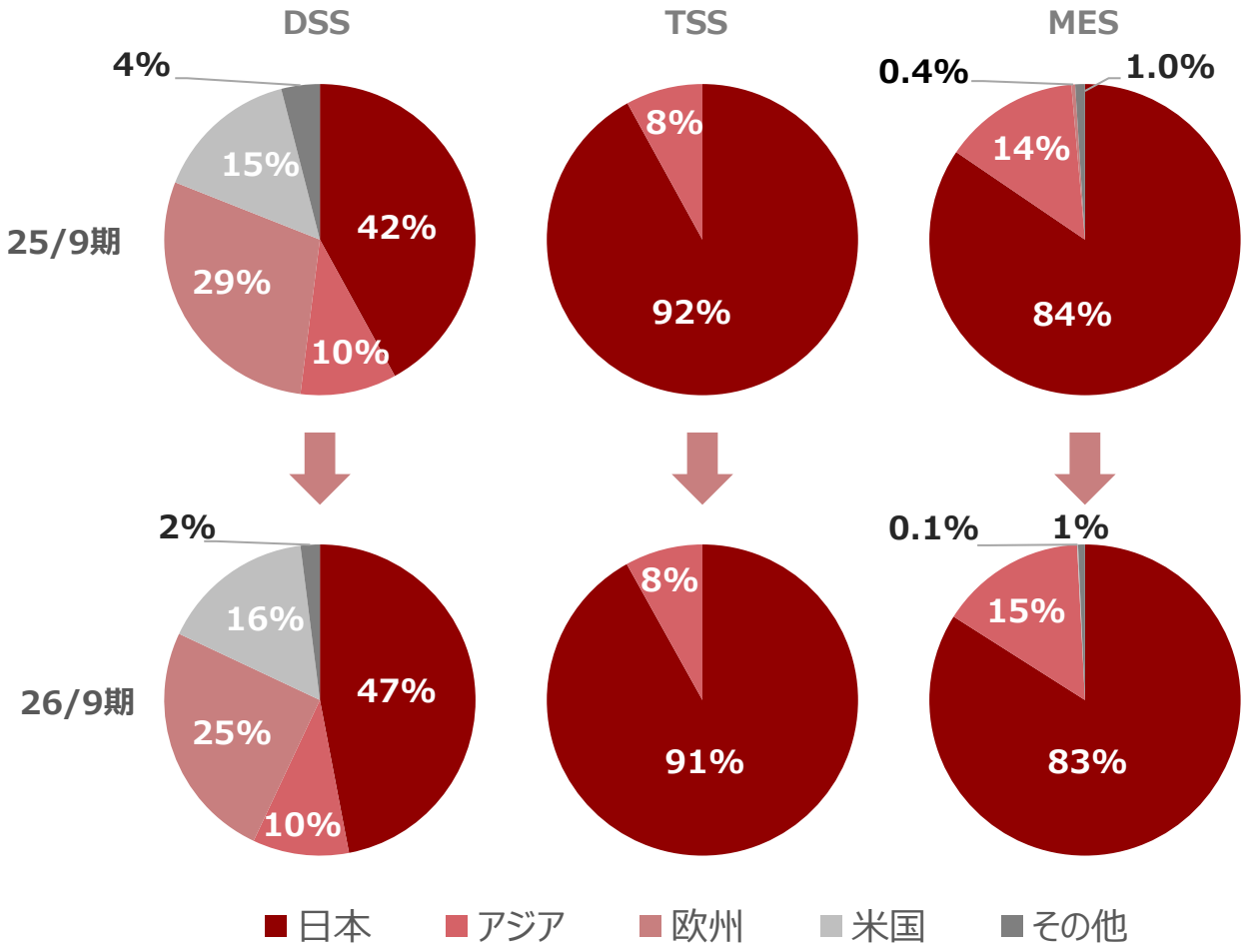
（単位：百万円）
（黒字は合計額）

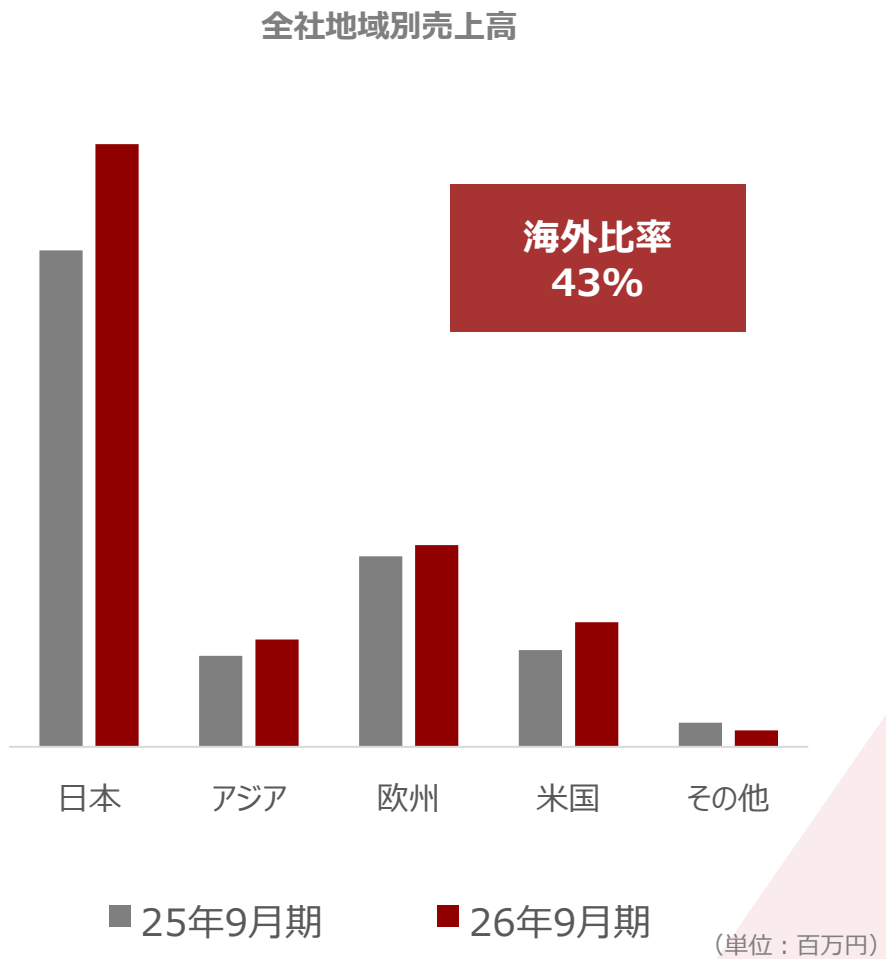
© IMV Inc.

事業別 地域別 売上構成比・売上高

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・DSSは国内比率が向上、全地域にて需要が堅調である
・TSS・MESは日本国内での売上が大多数を占める





（単位：百万円）

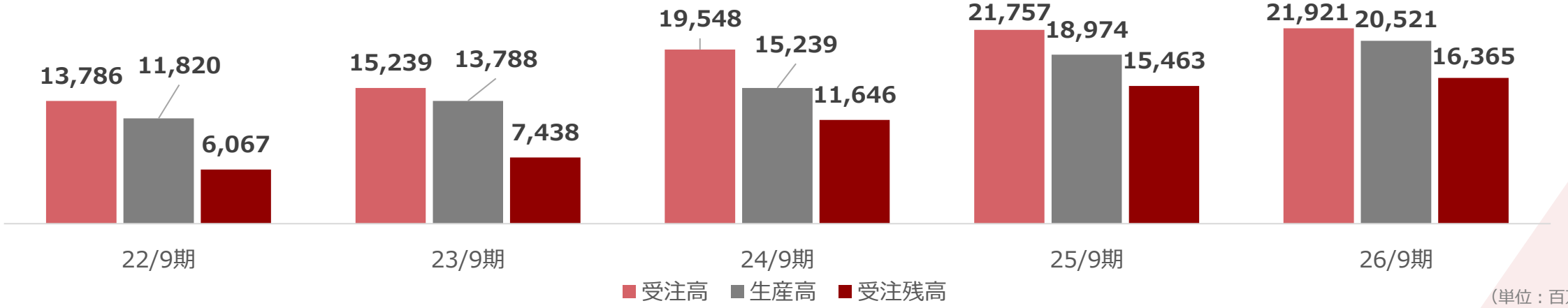
© IMV Inc.

事業別 受注高・生産高・受注残高

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・生産量の伸びが落ち着き長納期化が進むも、引き合い・受注は変わらず好調
・生産キャパシティ増強の取り組みを続ける

	受注高			生産高			受注残高		
	25/9期	**26/9期**	増減	25/9期	**26/9期**	増減	25/9期	**26/9期**	増減
DSS	16,760	**16,970**	+1.3%	14,048	**15,539**	+10.6%	14,420	**15,363**	+6.6%
TSS	3,864	**3,746**	△3.0%	3,693	**3,887**	+5.3%	741	**591**	△20.2%
MES	1,133	**1,204**	+6.3%	1,232	**1,094**	△12.2%	301	**410**	+36.2%
全社	21,757	**21,921**	+0.1%	18,974	**20,521**	+8.2%	15,463	**16,365**	+5.8%



（単位：百万円）

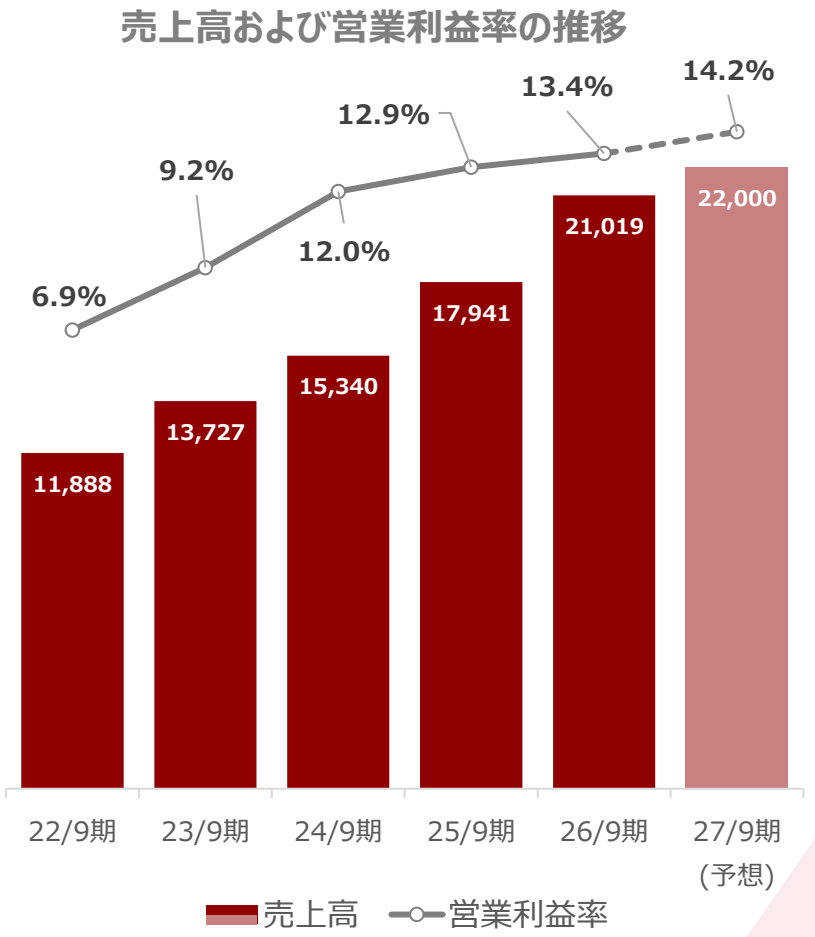
© IMV Inc.

業績の見通し（通期・連結）

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

・27/9期は売上高22,000百万を見込む
・案件毎の収益性やセールスミックスの変化から、利益率の向上を加速

	26年9月期 実績	27年9月期 予想	増減
売上高(百万円)	21,019	**22,000**	+4.7%
営業利益(百万円)	2,818	**3,120**	+10.7%
経常利益(百万円)	2,911	**3,120**	+7.2%
当期純利益（親会社株主帰属）(百万円)	2,145	**2,230**	+4.0%
売上高営業利益率(%)	13.4	**14.2**	+0.8pt
1株当たり当期純利益(円)	134.65	**140.03**	-
1株当たり配当金(円)	40.0	**40.0**	-



（単位：百万円）

© IMV Inc.

Index

1. 2026年9月期決算サマリー
2. 各種の取り組み
3. Appendix

© IMV Inc.



© IMV Inc.

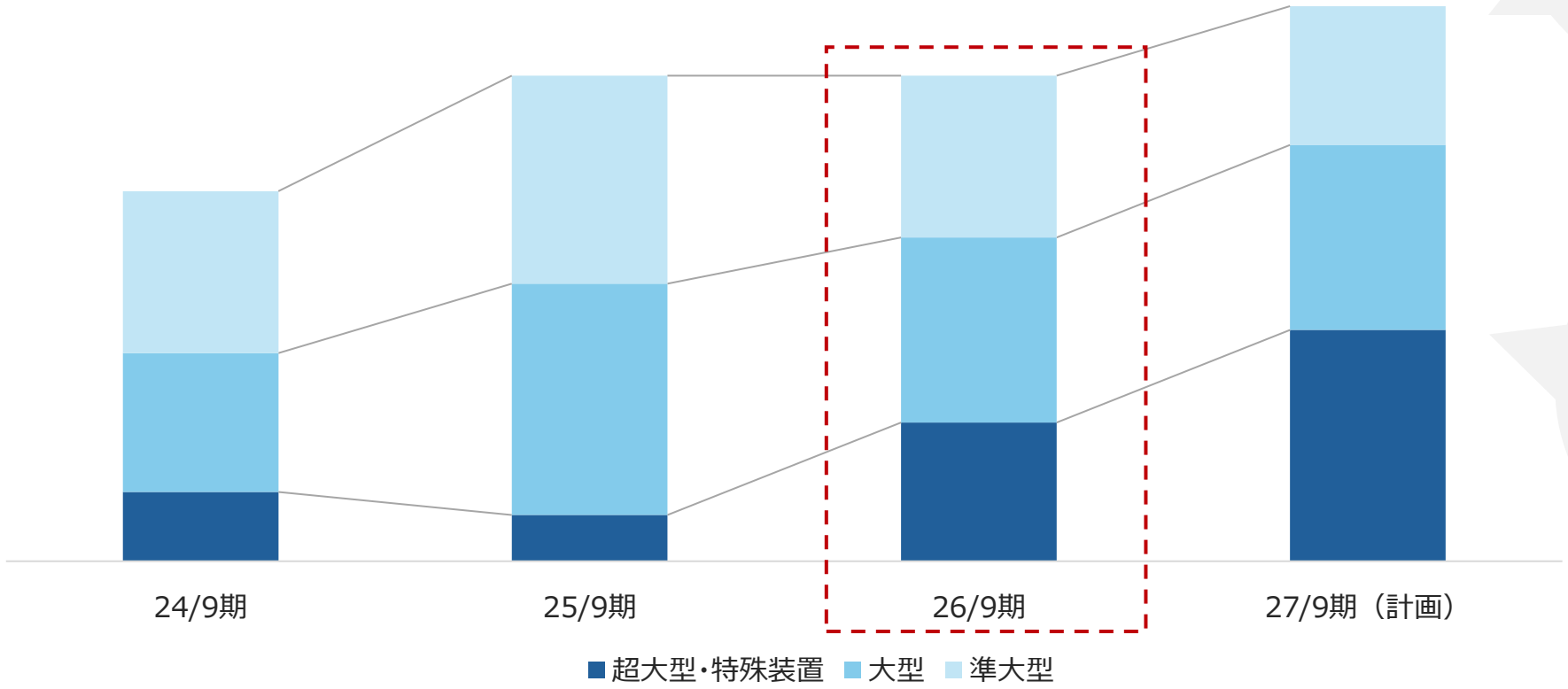
DSS事業

大型・特殊振動試験装置の需要拡大

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 25/9期以前に引き続き、大型・特殊装置*の需要が拡大中
- 特に、超大型・特殊装置については、需要・生産台数が急拡大
- これら大型装置は中小型装置と比べて利益率が高い傾向にある

大型・特殊試験装置の出荷台数推移



大型・特殊装置の総出荷台数は24/9期の約1.5倍

超大型・特殊装置は24/9期の3倍以上

*特殊装置…多軸・多点など複雑な構成の装置

© IMV Inc.

DSS事業

需要拡大の背景や産業別・地域性の動向

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 航空宇宙・防衛産業等が超大型・特殊装置のニーズ拡大を牽引
- 地域別では、日本国内・欧米を中心に、
  特定地域へ限定することなく、大型・特殊装置の引き合いや受注が継続している



航空宇宙産業

- 民間企業主導のビジネス化により世界市場が急拡大
- 打ち上げ等で大きな環境ストレスを受けるため、地上での信頼性試験が重要
- 供試品はロケットや衛星の部品や完成品



防衛産業

- 各国で防衛予算が拡大
- 新製品の開発や装備品の数の拡大により、振動試験の実施数が増加
- 大きな振動や複雑な振動を再現するため、大型・特殊な装置を用いることが多い



その他の産業

【自動車産業】
- 車載バッテリーの構造が複雑化
- 自走運転技術の発展で、信頼性試験の対象が増加

【AIサーバー関連】
- 水冷サーバーの登場により機器が複雑化
- 機器そのものも高価に
- 輸送故障のリスクが増大し、輸送試験のニーズが拡大

© IMV Inc.

DSS事業

需要拡大による課題とその対策

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 需要が拡大する一方で、生産キャパシティの限界や納期の長期化が課題に
- 納期の長期化を懸念して顧客が他社を選択する可能性は発生
  ⇒生産キャパシティの拡大に向けた取り組みを実施中

【課題】
- 生産キャパシティの逼迫（場所、人員の課題）
- 納期の長期化による営業機会の損失



【26/9期までの取り組み】
- 大阪テストラボエリアの一部を生産エリアに変更し、**大型装置の生産台数を約30%アップ**



【27/9期からの取り組み】
- 2027年1月に**「先進技術センター」が開所**　同センターに超大型機の生産を集約
- 2027年4月より、**TSS「大阪ラボ」の一部をDSSの生産エリアに変更**

© IMV Inc.

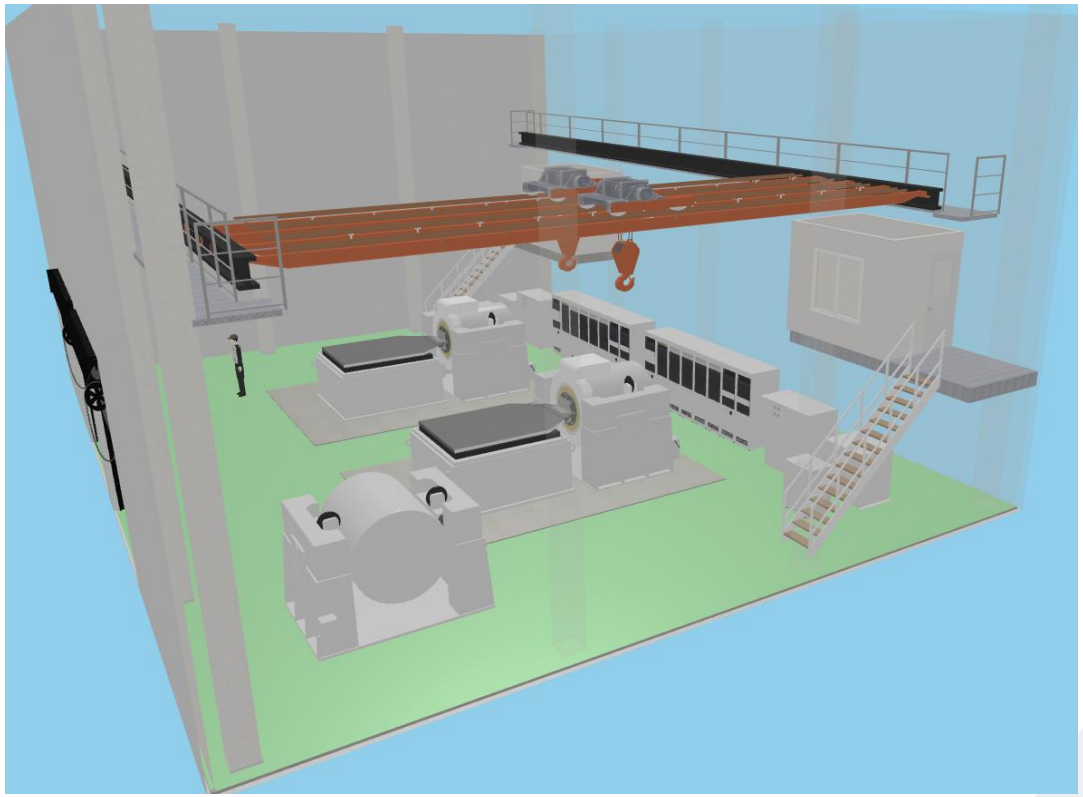
DSS事業

「先進技術センター」の準備状況

- 2027年1月から稼働・生産開始を予定
- 大型・特殊装置の生産能力を年間2倍に伸ばす計画
  ⇒大型・特殊装置は利益率が高い傾向にあるため、売上高への寄与だけでなく、利益率の向上も見込む



外観（建設中・26年10月末時点）



内部完成予想図（延べ面積：327.20m^2）

© IMV Inc.



© IMV Inc.

宇宙戦略基金

宇宙産業の成長と試験ニーズの拡大

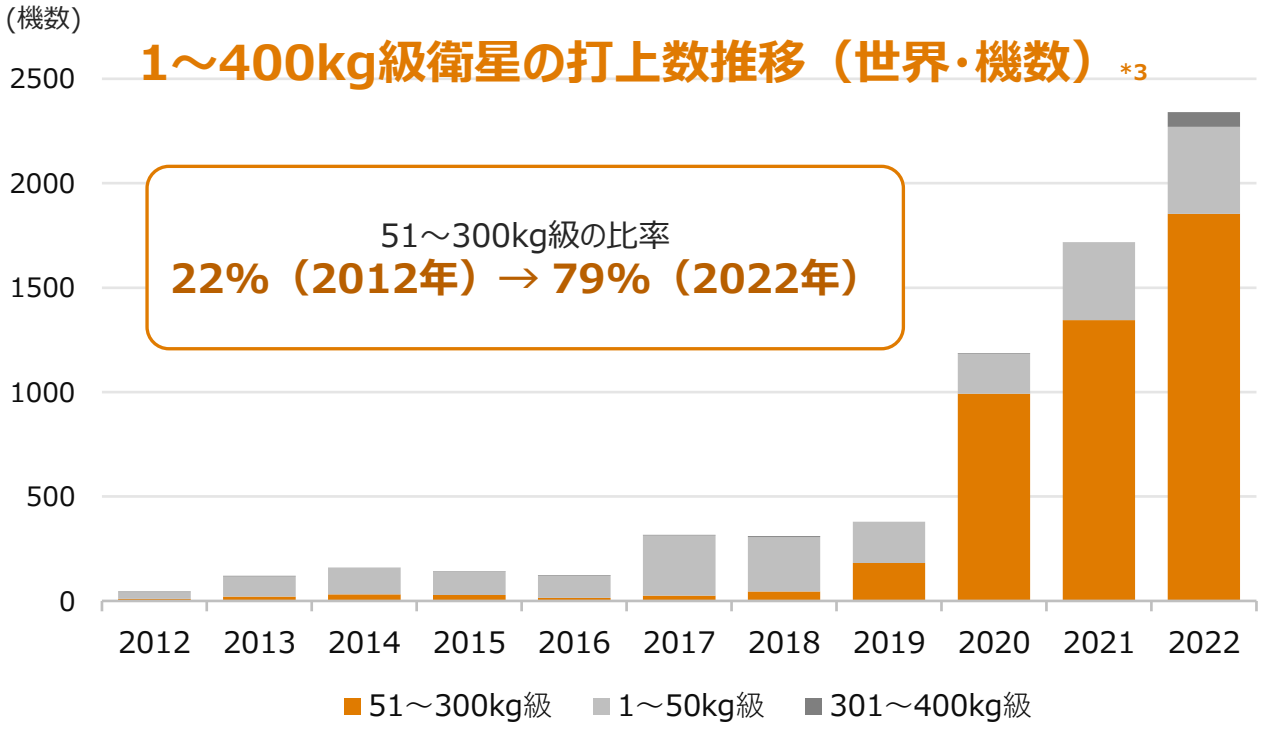
- 世界の宇宙産業の市場規模は2035年に約3倍へ。日本国内でも官民で打上げ能力・衛星コンステの拡大が見込まれる
- 衛星開発の主流は51～300kg級へ。一方、このサイズに合った試験拠点が不足

1.8兆ドル[*1] 世界：宇宙産業の市場規模予測（2035年に23年の約3倍）

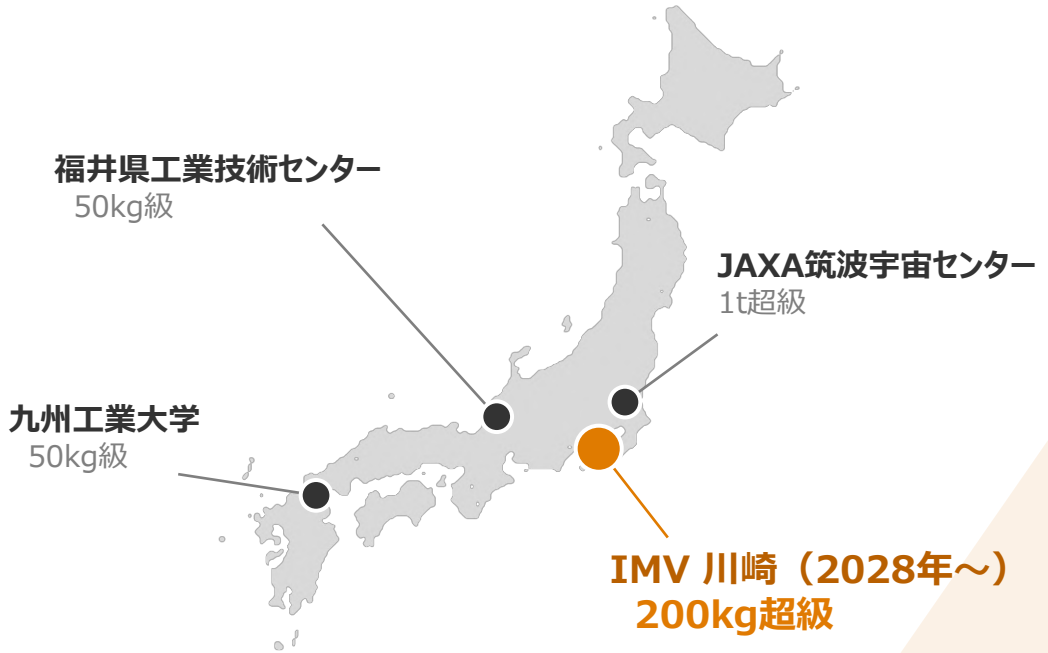
8兆円[*2] 日本国内：宇宙産業の目標市場規模（2030年代早期）

年間30件[*2] 国内のロケット打上げ目標件数（2030年代前半）

1～400kg級衛星の打上数推移（世界・機数）[*3]



宇宙機向け主要設備を集約した国内の試験拠点



出典 *1 WEF/McKinsey「Space: The $1.8 Trillion Opportunity」(2024) *2 内閣府「宇宙基本計画」（令和5年6月13日 閣議決定）
*3 超小型衛星利用シンポジウム2023 シー・エス・ピー・ジャパン(株) 超小型衛星の国際戦略・動向より当社作成

© IMV Inc.

宇宙戦略基金

宇宙戦略基金の概要とIMVの採択

SPACE STRATEGY FUND

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 宇宙戦略基金：政府がJAXAに創設した、民間企業・大学等の技術開発を複数年度にわたって支援する基金事業
- IMVは第2期テーマ「宇宙機の環境試験の課題解決」に代表機関として採択（2026年2月発表）

宇宙戦略基金の概要

設置	2024年3月、JAXAに基金を設置
規模	10年間で総額1兆円規模の支援をめざす
仕組み	テーマごとに公募し、最長10年の開発を支援
対象テーマ	第2期「宇宙機の環境試験の課題解決」 (A)各種環境試験：支援総額90億円 (採択予定：2件程度)

IMVの採択内容

課題名：宇宙機の各種環境試験実施拠点設立および試験手法の研究開発
期　間：2026年度～2031年度（予定）*1

総事業費
約57億円

うち基金支援
約42億円*2

補助事業	**委託事業**
試験機会の確保 → 宇宙機専用試験所の設立	信頼性評価の技術・知見の充足 → 試験手法の研究開発・普及

連携機関：九州工業大学、大阪公立大学、熊本大学、TOA株式会社

*1　期間は今後のステージゲート評価等により変動し得る
*2　金額は今後のステージゲート評価等により変動し得る

© IMV Inc.

宇宙戦略基金

補助事業：宇宙機専用の受託試験所設立

SPACE STRATEGY FUND

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 民間で国内初となる宇宙機専用の受託試験所を川崎市に新設（2028年4月以降開業予定）
- 200kg超級衛星を中心に、振動・衝撃・熱真空・音響の主要試験をワンストップで提供



試験所イメージ

所在地	川崎市川崎区（南渡田北地区北側開発計画の研究棟内）
延床面積	約1,430㎡
投資額	約45億円
対象	200kg超級を中心とした衛星、部品・コンポーネント
試験分野	振動・衝撃・熱真空・音響
処理能力	年間数十機以上
開業	2028年4月以降（予定）
位置づけ	IMV国内8拠点目、初の宇宙機特化拠点

ワンストップ
試験条件策定～実施を一括、工数・工期を削減

立地
宇宙ベンチャーが集まる都心から好アクセス

持続性
民間の自立運営で需要変化に応じ設備を更新

© IMV Inc.

宇宙戦略基金

委託事業：試験手法の研究開発・普及

SPACE STRATEGY FUND

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 小型・量産衛星に適した試験プロセスの確立に向け、大学・企業と連携して試験技術を研究開発
- 研究成果を自社設備で実証し、業界へ普及・共有することで国内の試験エコシステムを強化

調査・検討

欧米の最新検証思想・試験動向の調査

新たな試験・検証手法の必要性検討

情報共有の仕組み（プラットフォーム）の検討

技術開発

振動	200kg級衛星の効率的な試験手法	大阪公立大学
衝撃	大質量・多方向の衝撃試験技術	熊本大学 他
熱真空	軌道上温度の予測・再現技術	九州工業大学
音響	小型残響室での音場制御技術	TOA株式会社
供試体	50kg・200kg級の模擬衛星開発	九州工業大学

普及・共有

専門家ワーキンググループの運営

初心者向けノウハウ書・技術書の発行

勉強会・研修会、学会発表

業界のネットワーキング

IMV設立予定試験所
研究成果の検証・実証の場

試験の工期・コスト削減

信頼性評価の共通理解

宇宙人材の育成・参入促進

© IMV Inc.

宇宙戦略基金
今後の展望

SPACE STRATEGY FUND

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 宇宙機の量産化と試験の外部委託の流れを捉え、受託試験（TSS事業）の新たな事業領域を確立
- 環境試験を起点に、試験の高度化・認証支援など実機試験以外へも事業を拡張

2026年2月
採択公表

2026年度
事業開始
研究開発に着手

2028年4月以降
受託試験所開業
（予定）

2032年3月＊
基金事業期間
終了（予定）

以降
自立運営で
設備更新を継続

1 試験対象の増加

量産化・コンステレーション化で衛星機数が増加し、受託試験の需要が拡大

2 外部委託の加速

自動車産業と同様に試験の分業化が進み、機能試験など受託範囲が広がる

3 実機試験以外の成長

シミュレーション技術や認証支援など試験の簡素化ニーズにも対応

4 グループシナジー

研究で得た知見を宇宙向け大型振動試験装置（DSS）の開発・販売にも還元

宇宙機の試験需要の受け皿として、自動車向け中心だった受託試験の顧客基盤を拡大

＊ 時期・期間は今後のステージゲート評価等により変動し得る

© IMV Inc.



© IMV Inc.

防災BU
防災産業の機運醸成

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 気候変動等の影響で、世界中で災害が増加している
- デジタル活用により「DX防災」等の新市場が生まれ、市場全体が国内外とも拡大見込み
- 26年11月、日本では防災庁が設立。日本企業の防災技術の海外展開も図られる

【自然災害の増加】
- 気候変動の影響で異常気象が増加
- 世界中で大地震が発生

この1年間で世界で発生した大規模地震

国・地域	発生月	マグニチュード
インドネシア	26年4月	7.4
ベネズエラ	26年6月	7.5
メキシコ	26年7月	7.3
熊本県	26年7月	6.8
コロンビア	26年8月	7.4

【当社にとっての機会】
- 企業におけるBCP/ESG投資への注目
- デジタルを活用した「DX防災」という新たな市場
- 26年11月の防災庁発足

- 防災ビジネスの市場規模の拡大
- 日本の防災技術の海外展開
- 防災は「コスト」ではなく「不可欠な投資」という見方の変化
  ⇒**防災ビジネスの機運醸成**

約2,360億円[*1]
日本国内の防災情報システム・サービス市場（2030年）

約300億ドル[*2]
世界の防災情報システム・サービス市場（2030年）
2023年の約2倍、環太平洋地域が牽引

出典　*1　株式会社シード・プランニング「2025年版防災情報システム・サービス市場の最新動向」（2025年）
*2　360iResearch「Disaster Preparedness Systems Market - Global Forecast 2026-2032」（2026年）

© IMV Inc.

防災BU
主な実証・開発実績

- 国内では産業技術総合研究所をはじめとする公的機関等との機能開発を進める
- 海外ではローカライズや新機能の検証など、海外適応に向けた実証事業に取り組んでいる

長周期地震動に対応した観測技術の開発
×産業技術総合研究所



- 産総研との共同検証により、新型センサで0.02Hz帯の超長周期計測性能を実証
- 国際規格ISO 37174 Category +L(0.05Hz)準拠の新型地震計「SW-9033」を製品化。

タイの高層ビルでの構造物ヘルスモニタリング
×バンコク都、×チェンマイ大学、×DPT



- 内閣府「令和7年度 防災産業の海外展開に関する調査実証事業」に採択
- タイ3ヵ所の高層ビルにて、長周期地震動をリアルタイムにクラウド監視する構造物ヘルスモニタリングの実証事業を実施

地震計連動ネットワークカメラシステムの共同実証
×防災科学技術研究所、×TOA株式会社


実証時に設置した「TRIFORA（TOA製）」


実証時に設置した「S-QUBE（IMV製）」

- 地震発生時の揺れを検知し、被災前後の映像を自動記録・共有する仕組みを実証
- 発災直後の被災状況を遠隔から正確に把握し、企業やインフラ施設における初動対応の迅速化や二次災害リスク低減への活用を見込む

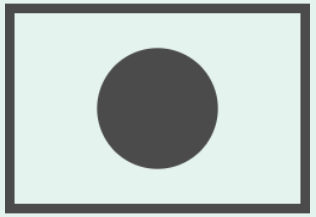
© IMV Inc.

防災BU
今後の展望

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- 国際規格や地域のガイドライン基準をクリアした製品力で、国内外での販売を強化
- 地震計以外の計測機器への対応を進め、「総合防災ソリューションの提供」を目指す

国内市場



- 長周期地震動観測技術を強みに、国内の高層ビルや重要インフラ（橋梁・ダム・エネルギー施設等）への新規導入、ならびに既存市場での更新・拡販を推進

海外市場



- 東南アジアの地震頻発国を中心に、構造ヘルスモニタリングや発災時の制御を目的とした地震計の販売活動を加速

総合防災ソリューションへ



- 地震計以外の計測機器にも対応した表示装置を新規開発
- クラウド連携により、遠隔でのモニタリングやデータ管理・利活用をより容易に
- これらをもって「総合防災ソリューションサービス」への進化を目指す

- 地震計だけでなく、校正装置である「振動試験機」も製造販売するメーカーとしての強みを活かして、校正・サービスも強化していく

© IMV Inc.

Index

1. 2026年9月期決算サマリー
2. 各種の取り組み
3. Appendix

© IMV Inc.

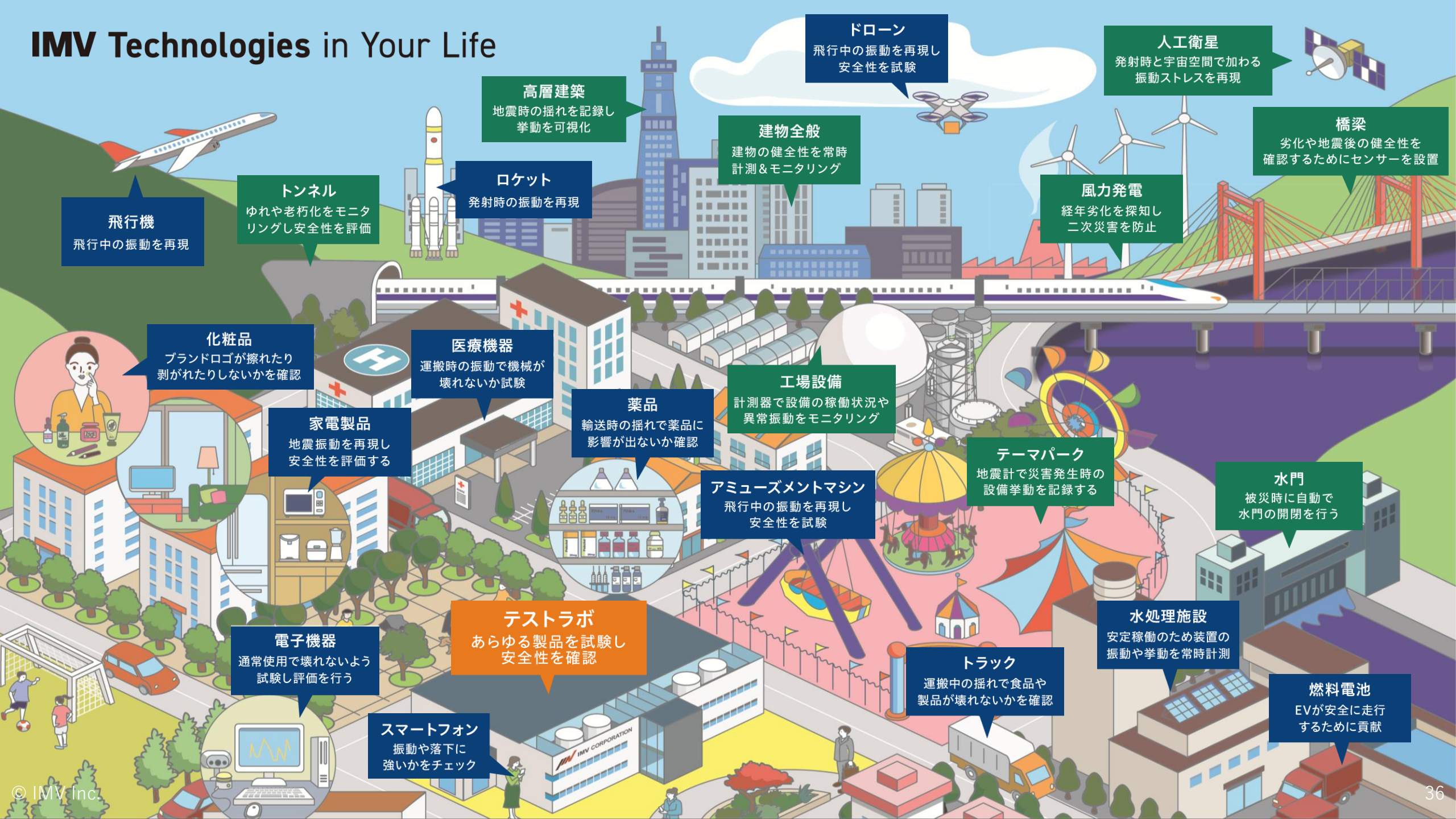
企業理念
Company Philosophy

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

Secure the Future
～未来の安全・安心のために～

IMVは、事業を通じて世界の安全・安心に寄与し、
持続可能な社会の実現に貢献します
IMVで働く人々は、すべての業務が世界の安全・安心に繋がることを常に意識し、
またそれを誇りに思います

© IMV Inc.


IMV Technologies in Your Life
ドローン
飛行中の振動を再現し
安全性を試験
人工衛星
発射時と宇宙空間で加わる
振動ストレスを再現
高層建築
地震時の揺れを記録し
挙動を可視化
建物全般
建物の健全性を常時
計測＆モニタリング
橋梁
劣化や地震後の健全性を
確認するためにセンサーを設置
ロケット
発射時の振動を再現
トンネル
ゆれや老朽化をモニタ
リングし安全性を評価
風力発電
経年劣化を探知し
二次災害を防止
飛行機
飛行中の振動を再現
化粧品
ブランドロゴが擦れたり
剥がれたりしないかを確認
医療機器
運搬時の振動で機械が
壊れないか試験
工場設備
計測器で設備の稼働状況や
異常振動をモニタリング
家電製品
地震振動を再現し
安全性を評価する
薬品
輸送時の揺れで薬品に
影響が出ないか確認
テーマパーク
地震計で災害発生時の
設備挙動を記録する
水門
被災時に自動で
水門の開閉を行う
アミューズメントマシン
飛行中の振動を再現し
安全性を試験
テストラボ
あらゆる製品を試験し
安全性を確認
水処理施設
安定稼働のため装置の
振動や挙動を常時計測
電子機器
通常使用で壊れないよう
試験し評価を行う
トラック
運搬中の揺れで食品や
製品が壊れないかを確認
燃料電池
EVが安全に走行
するために貢献
スマートフォン
振動や落下に
強いかをチェック
IMV CORPORATION

© IMV Inc.

会社概要
Company Profile

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来



商号	IMV株式会社　［英文社名：IMV CORPORATION］
会社設立	1957年（昭和32年）4月17日
資本金	4億6481万円
従業員数	493名（2026年9月30日現在 連結）
年間売上高	210億1,953万円（2026年9月期 連結）
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	7760
決算期	9月30日

© IMV Inc.

サービス体制
Global Network

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来








イギリス
IMV EUROPE LIMITED


ドイツ
IMV EUROPE LIMITED


タイ
IMV (THAILAND) CO., LTD.



アメリカ
IMV America, Inc.


フランス
IMV France



ベトナム
IMV TECHNO VIETNAM COMPANY LIMITED


上海
IMV株式会社 上海代表所

© IMV Inc.



DSS

Dynamic Simulation Systems

振動試験装置

© IMV Inc.

DSS製品ラインアップ

Vibration Test Systems ｜ 振動試験装置

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

振動試験装置

半導体のような小型部品から自動車部品、あらゆる製品の評価に使用されます。従来機より性能が向上したAシリーズは、これまで不可能だった試験を可能にします。



水冷式大型振動試験装置

人工衛星や鉄道車両のような大型製品の評価に使用されます。大型でありながら、水冷式を採用することにより試験中の騒音を最小限に留め、試験環境の向上を実現した製品です。



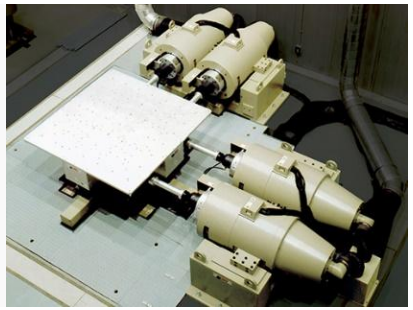
振動制御器 K2+

試験内容を忠実に実施させるためのコントロールユニットです。ハードウェア・ソフトウェア全てを自社開発し、複雑な試験でも簡単に実施可能します。



多軸多点振動試験装置

現実に起きる振動環境の正確な再現が可能です。



温湿度環境振動試験装置

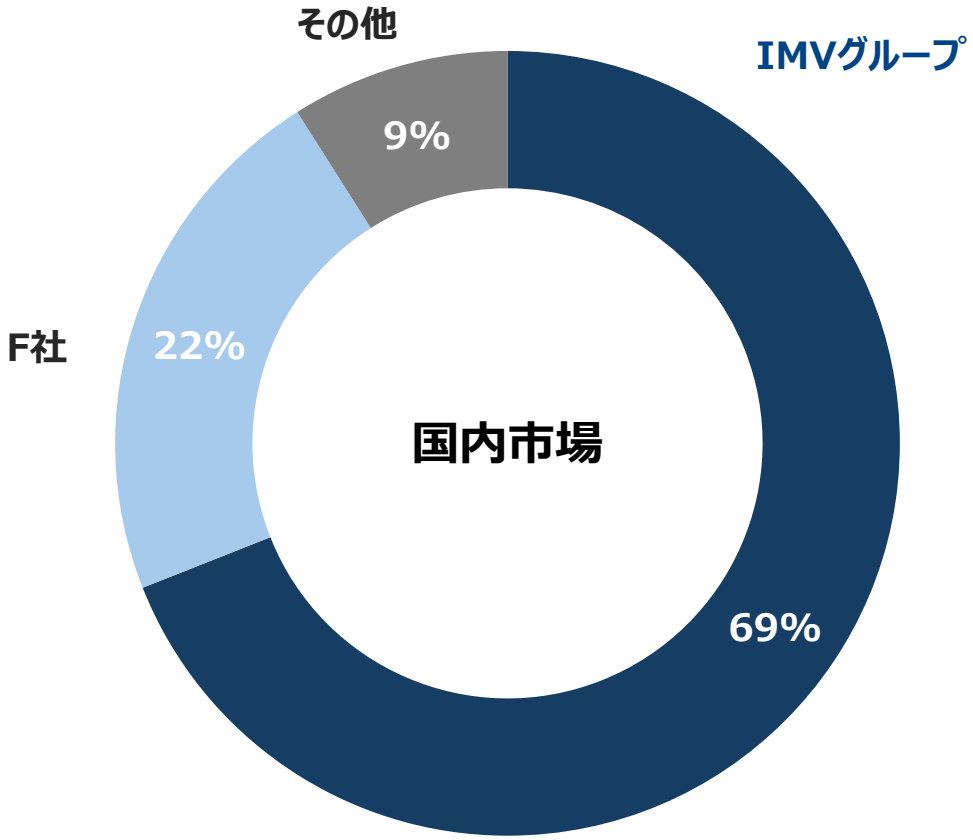
車載用機器や電気機器等に対して、振動と温湿度等を同時に加えることで、実際の使用環境に即した試験を可能とします。

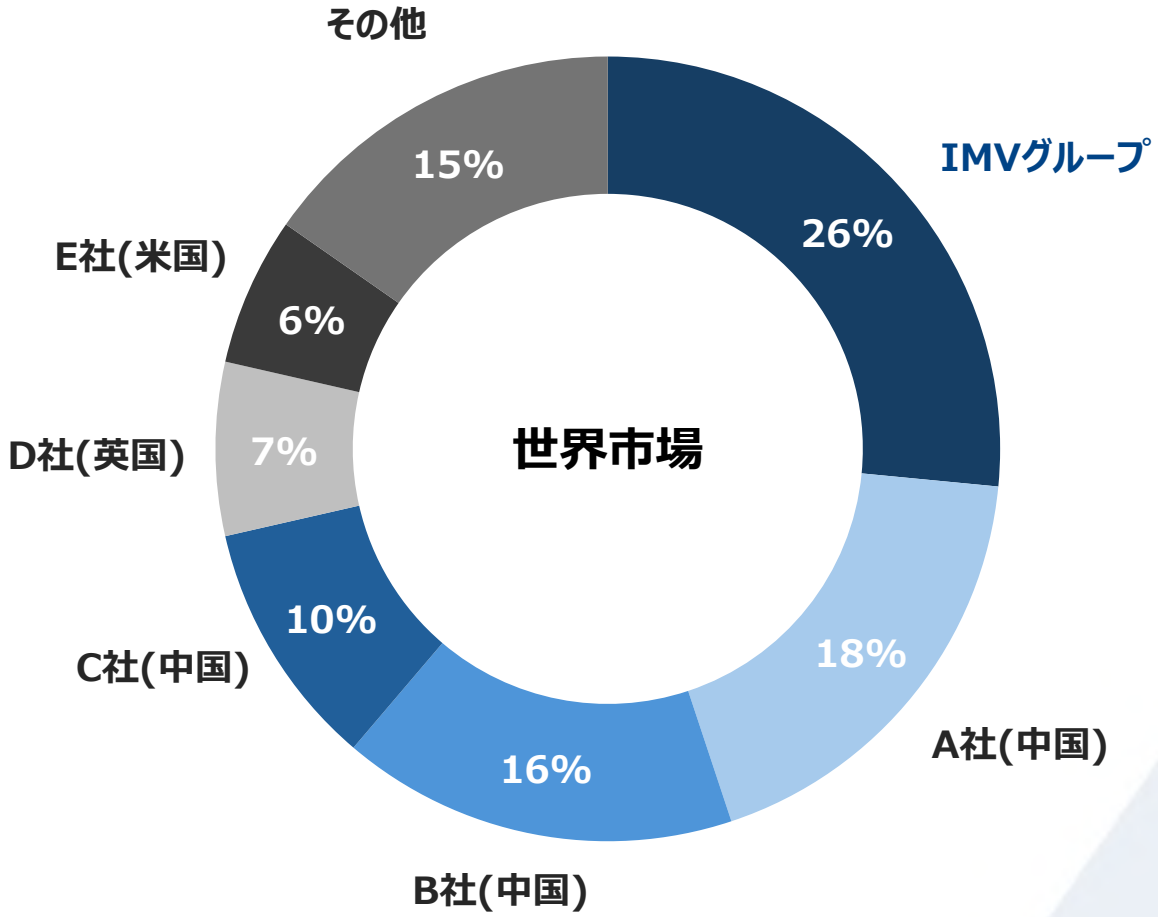
小型振動試験装置・高周波振動試験装置

小型・低騒音でありながら本格的な試験にも対応可能な装置です。さらに小型振動試験装置と恒温槽を組み合わせることで2k～10kHzまでの高周波の複合試験が可能な高周波振動試験装置も取り揃えております。

© IMV Inc.

DSS 販売シェア状況（当社独自調査）



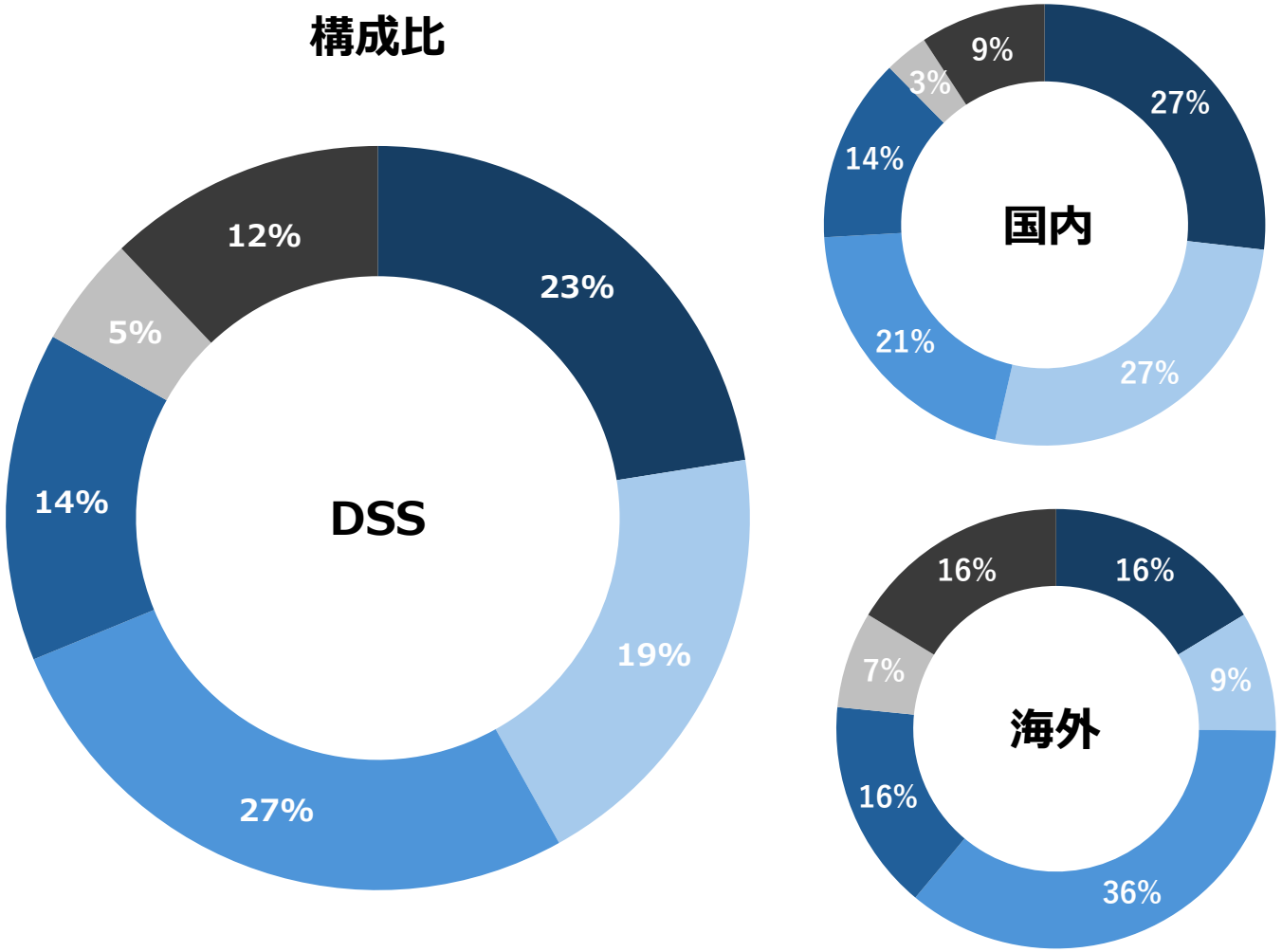


© IMV Inc.

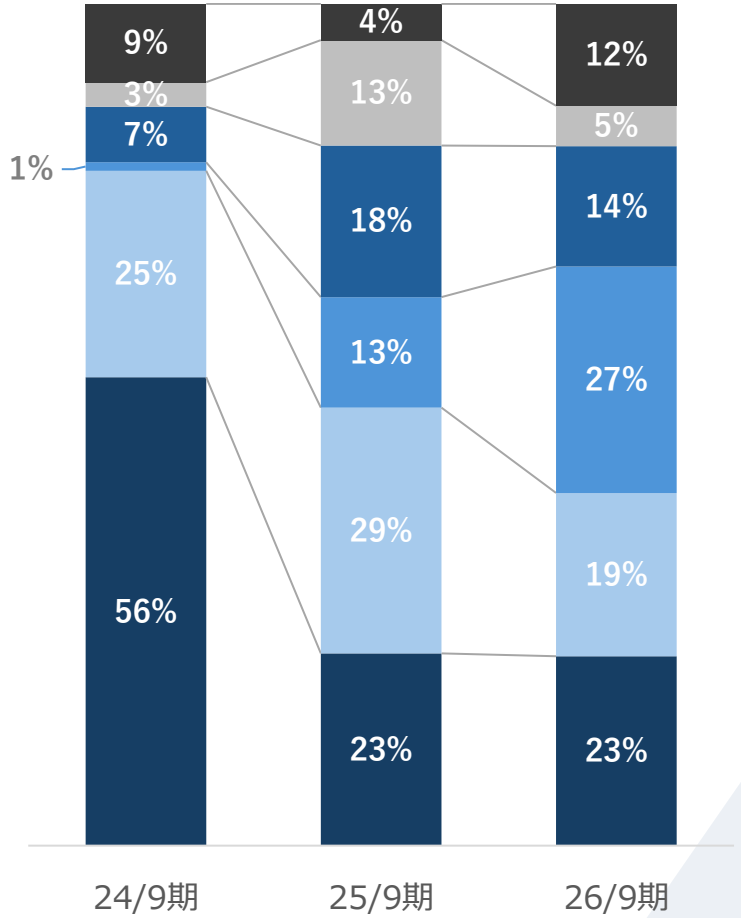
DSS 産業別受注状況（サービスを除く）

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

構成比



構成比推移



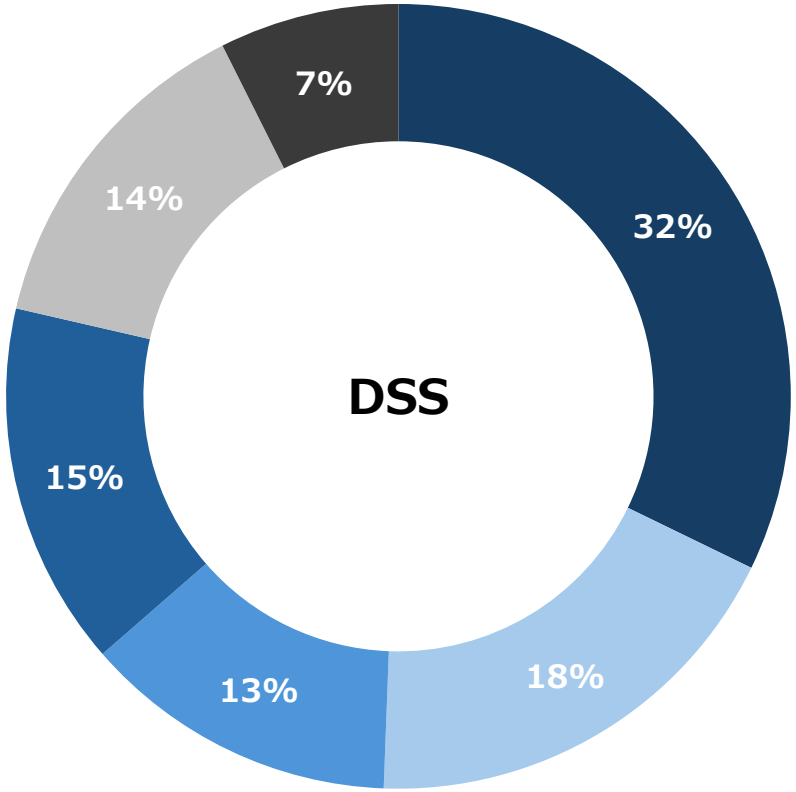
■自動車 ■防衛 ■航空宇宙 ■機械・建機・鉄道 ■試験所 ■その他

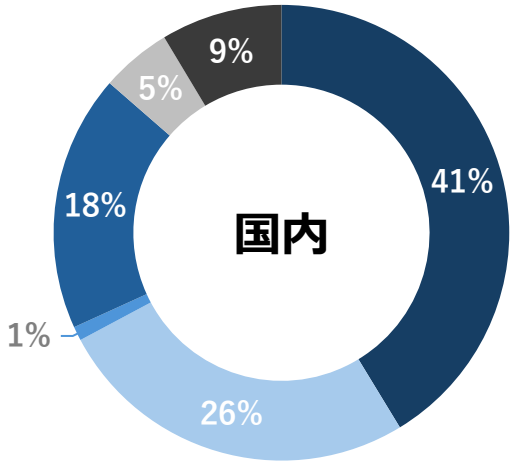
© IMV Inc.

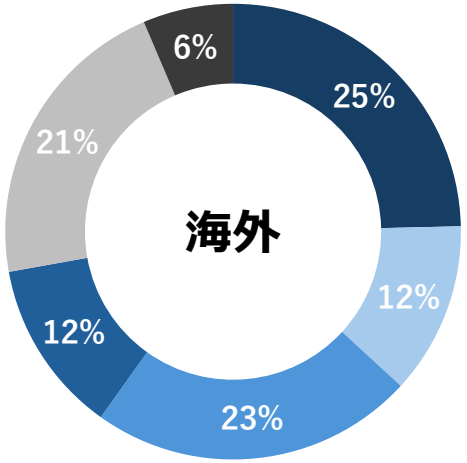
DSS 産業別売上状況（サービスを除く）

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

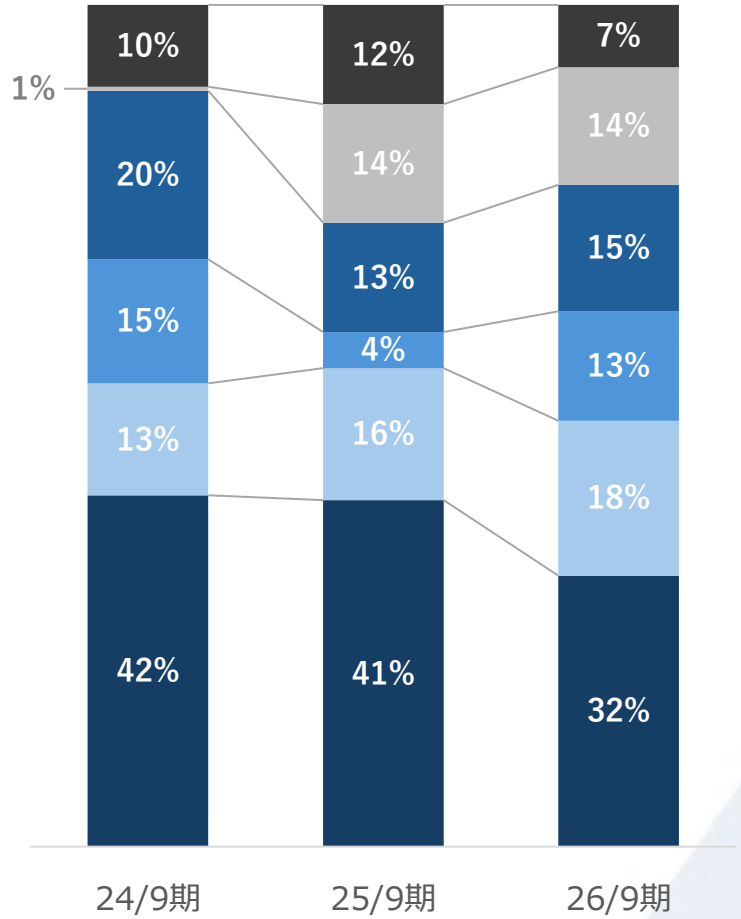
構成比







構成比推移



■自動車 ■防衛 ■航空宇宙 ■機械・建機・鉄道 ■試験所 ■その他

© IMV Inc.

主な納入先

Vibration Test Systems ｜ 振動試験装置

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- アディエント合同会社
- インターステラテクノロジズ株式会社
- EIZO株式会社
- 江崎グリコ株式会社
- 大阪電気通信大学
- キヤノン株式会社
- 京セラ株式会社
- キリンホールディングス株式会社
- JAXA
- 住友電装株式会社
- 千石株式会社
- ソニー株式会社
- 大研医器株式会社
- TDK株式会社
- 株式会社デンソー
- 東芝インフラシステムズ株式会社
- TOTO株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- ニチコン亀岡株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日本たばこ産業株式会社
- VAIO株式会社
- パナソニック株式会社
- フジテック株式会社
- 株式会社堀場製作所
- 株式会社マキタ
- マツダ株式会社
- 株式会社Mizkan
- 株式会社安川電機
- ヤンマー株式会社
- ヤマキ株式会社
- ローランド株式会社
- AIRBUS
- AKUVIB Engineering and Testing GmbH
- AUDI AG
- AUMA Riester GmbH & Co. KG.
- Auto-Kabel Management GmbH
- Bertrandt Ingenieurburo GmbH
- BMW
- CUONICS GmbH
- DIXI Microtechniques
- EDAG Engineering AG
- Eurofins Product Service GmbH
- FEV Europe GmbH
- fos4X GmbH
- Institute of Air Handling and Refrigeration
- KFE GmbH
- Kostal Kontakt Systeme GmbH
- 合弁会社PATAC
- SGS S.A
- Vitesco Technologies Emitec GmbH

© IMV Inc.

掲載許可を得た企業様のみ公開しています。（2025年11月時点）

主な納入先

Vibration Test Systems ｜ 振動試験装置



© IMV Inc.

掲載許可を得た企業様のみ一部公開しています。（2025年11月時点）



TSS

Test & Solution Service

テスト＆ソリューションサービス

© IMV Inc.

IMVテストラボの事業紹介

Test & Solution Service ｜ テスト&ソリューションサービス

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

大阪テストラボ



大阪市西淀川区竹島2-6-10
開設：2005年

振動試験　電池試験

多目的試験所



大阪市西淀川区竹島2-6-10
開設：2025年

振動試験　大型・長尺

名古屋テストラボ



愛知県みよし市根浦町5-2-18
開設：2007年

振動試験　EMC試験　電池試験

東京テストラボ



神奈川県相模原市緑区日連870
開設：1988年

振動試験

IMV（THAILAND）CO., LTD



アマタシティ・チョンブリ工業団地
開設：2011年

振動試験　環境試験

上野原サイト 高度試験センター



山梨県上野原市八ツ沢2193-28
開設：2015年

振動試験　電池試験

日本高度信頼性 評価試験センター



埼玉県入間市宮寺4102番142
開設：2018年

振動試験　EMC試験　環境試験

春日井テストラボ



愛知県春日井市上条町3-24-5
開設：2019年

振動試験

IMV TECHNO VIETNAM CO., LTD



タンロン工業団地
開設：2018年

振動試験　環境試験

IMV TECHNO VIETNAM Ho Chi Minh City Laboratory



ホーチミン市
開設：2025年

振動試験　環境試験　長期保管

© IMV Inc.

1. 試験所認定（ISO/IEC17025）取得済

IMV株式会社は振動・衝撃試験の受託業務を実施している国内テストラボ6拠点、
海外テストラボ2拠点において、試験所の試験・校正を行う能力を規定した
国際規格である「ISO/IEC 17025」に準拠した品質マネジメントシステムを構築し、
認定機関から認定を受けております。

2. 情報セキュリティ認定（ISO27001）取得済

テストラボ事業本部は、情報セキュリティマネジメントシステムの
国際規格「ISO27001」の認証を取得しております。

© IMV Inc.

IMVテストラボの事業紹介

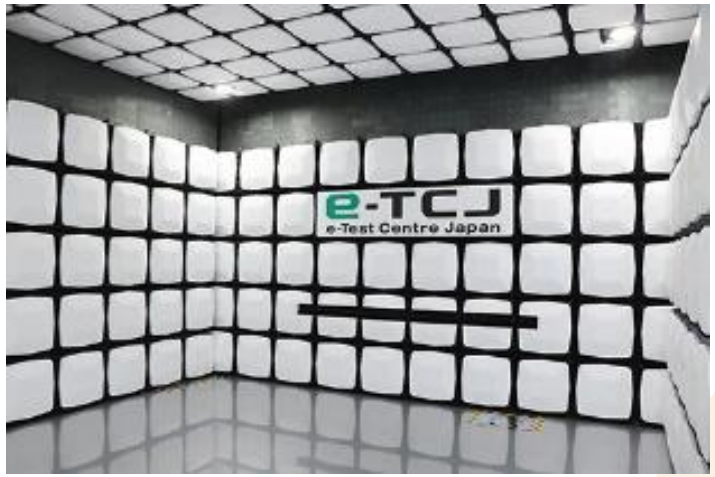
Test & Solution Service ｜ テスト&ソリューションサービス

- **小型～大型機まで充実のラインナップ**
- **自動車、航空宇宙、電子機器など様々な業界において2万件を超える試験実績**
- **シミュレーション試験技術の開発**

小型から大型まで豊富な振動試験設備を保有しており、
特に大型タイプは業界屈指のラインナップを有します。
また複数加振機による多点加振(長尺物)環境も備えています。

振動試験以外にもハイストレス温度サイクル試験、塩水噴射試験等の
環境試験や車載機器を中心としたEMC試験などにも対応しています。





© IMV Inc.

特長ある試験サービスと業界屈指の試験環境

小型～大型機まで充実のラインナップ

小型から大型まで豊富な振動試験設備を保有しており、特に大型タイプは業界屈指のライナップを有します。また複数加振機による多点加振（長尺物）環境も備えています。約半数は恒温槽を備える複合試験対応機となっており、これら多様な機器群によりフレキシブルな試験サービスを提供いたします。

信頼性評価試験

e-モビリティ（電気自動車の大型モータやインバータ等）の信頼性評価試験や電池専用の試験室を構築。
当社エンジニアによる試験計画策定・コンサルティングから、確認・分析までを総合的に提供するサービスも実施しています。

EMC試験

電気・電子製品に対しての電磁波の特性・耐性のあらゆる試験に対応しております。
製品分野別においても、車載機器をはじめ、民生機器・船舶機器・鉄道機器・工業機器・無線機器・医療機器など広範囲な試験にも対応しております。

環境試験

ハイストレス温度サイクル試験や塩水噴射試験など様々な環境試験に対応しています。

テストラボ向けiMV cloudサービス

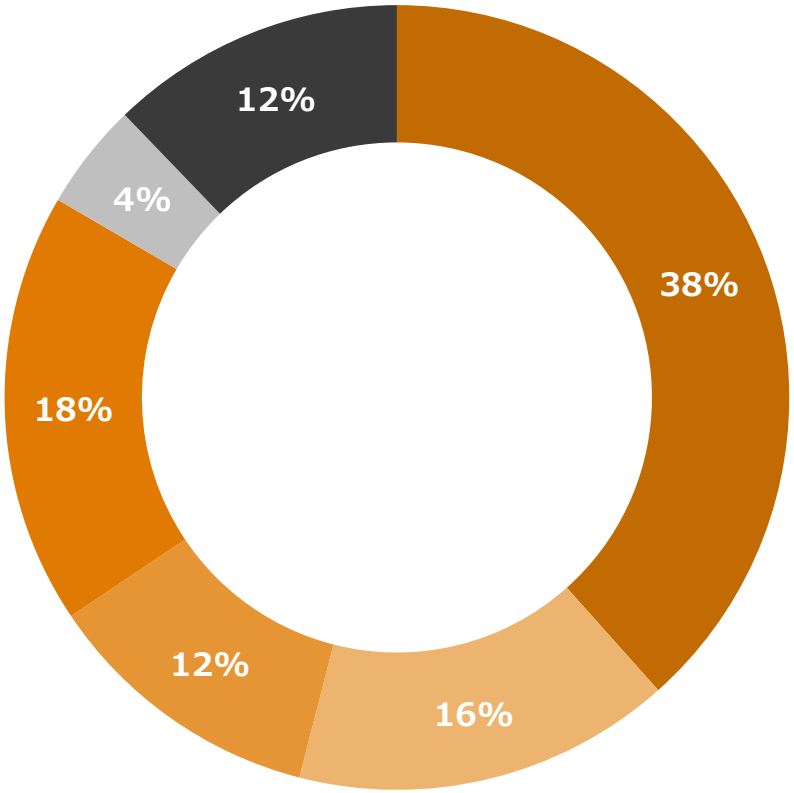
お客様の試験・評価・開発活動を促進するIoTサービスです。遠隔監視やデータ管理など試験業務を効率化しお客様の課題を解決します。

© IMV Inc.

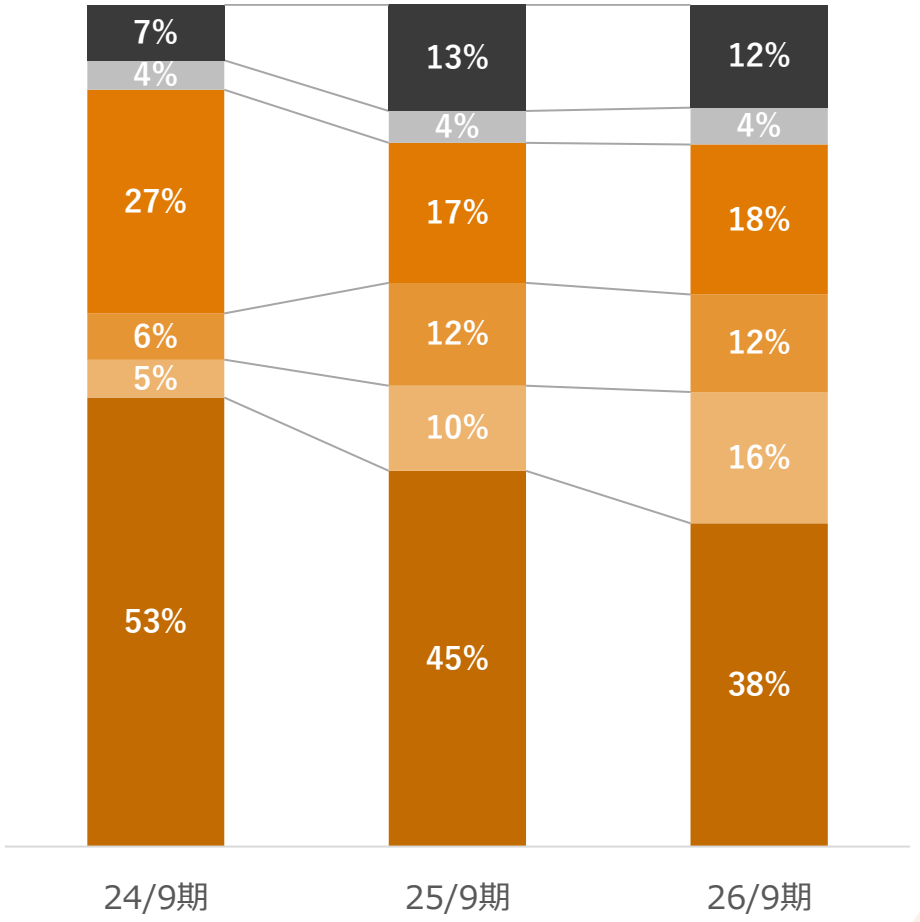
TSS 産業別受注状況

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

構成比



構成比推移

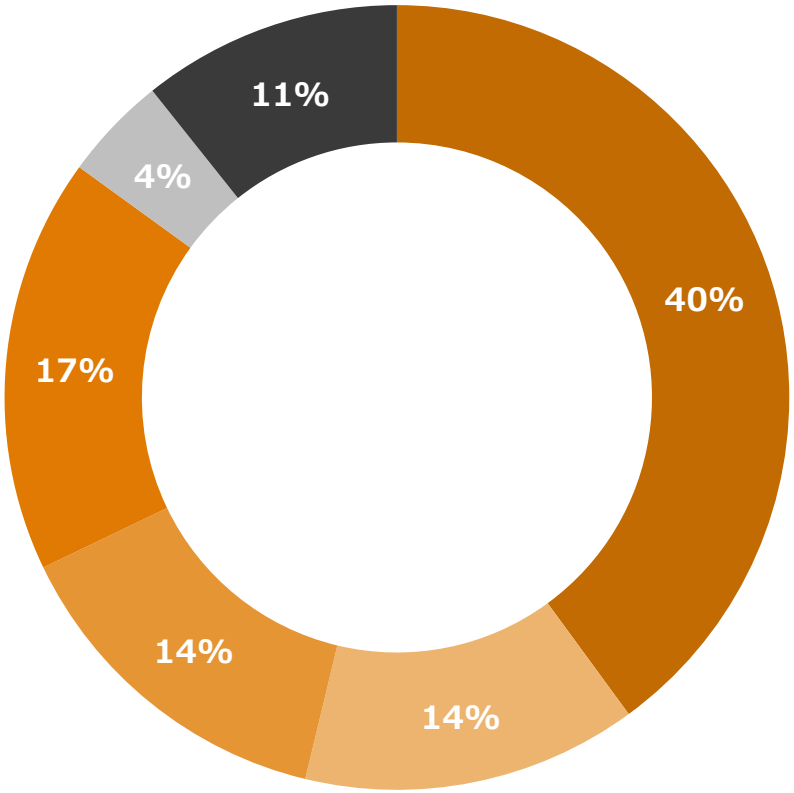


© IMV Inc.

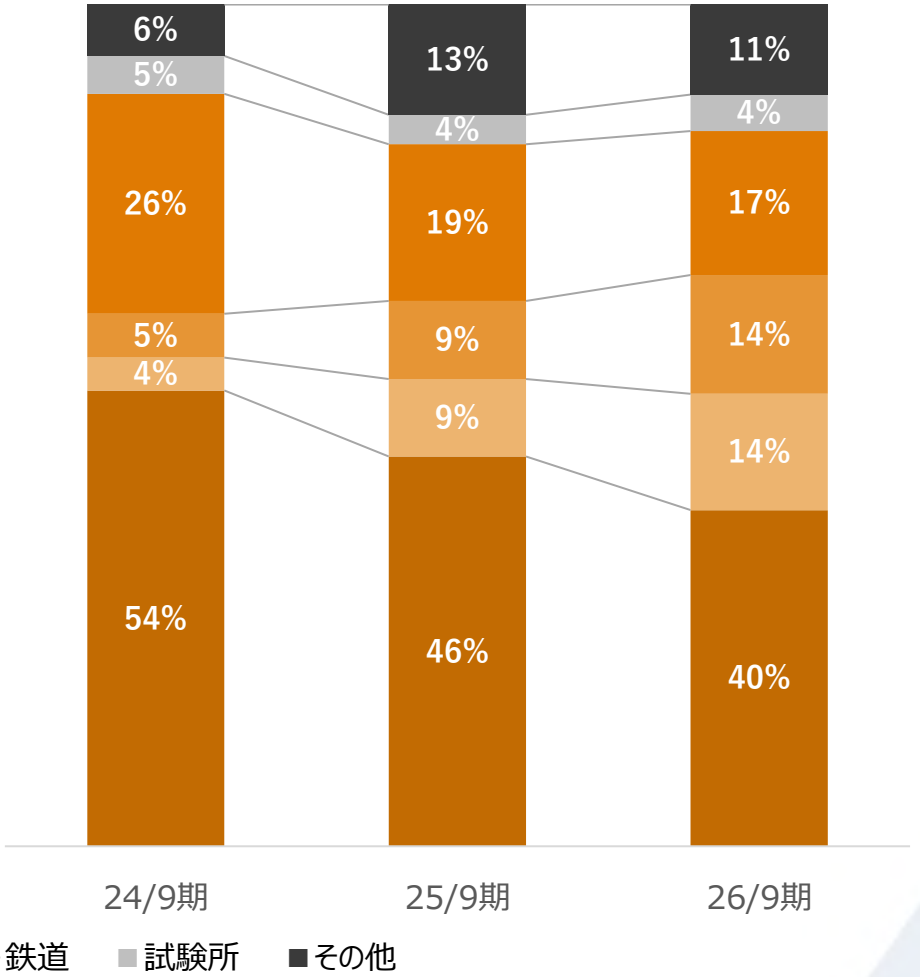
TSS 産業別売上状況

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

構成比



構成比推移



© IMV Inc.



MES

Measuring Systems

メジャリングシステム

© IMV Inc.

製品ラインアップ

Measuring Systems ｜ メジャリングシステム

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

地震監視装置

地震を常時監視し、発生時には設備を緊急遮断することにより二次災害の防止に貢献します。



IoT関連商品

機械の状態監視と地震時の緊急対応両方でIoTでの活用を想定した製品の取り揃えております。



FA用振動センサ

安価なMEMS素子でも10kHzまで正確に測れる超小型ピックアップをはじめ、多様なラインナップを取り揃えております。



振動計測装置

床振動から機械装置の回転振動まで、あらゆる振動を計測します。



構造ヘルスモニタリングシステム

ビルや橋梁といった構造物の多点に設置し、地震時および定期的に加速度波形を収集し速報や健全性を評価します。



振動監視装置

発電所やポンプなどの機械振動を常時監視し、予防保全に活躍します。



FA向け状態監視ユニット

FA向け次世代の状態監視ユニットです。PLCと省配線システムAnyWireASLINKを介した双方向通信を実現します。



© IMV Inc.

地震計の国際標準化活動

地震発生時の避難誘導、重要設備の停止、地震発生後のビルやダムなどの構造物の健全性の確認等で日本では様々な場面で地震計が活用されています。しかし、海外では防災としての地震計活用が普及していません。

IMVはスマート都市インフラの防災に関する国際標準化を検討するISO/TC268/SC1/WG6で、地震計システムの国際標準化を進めています。

この規格では地震計システムの防災に関する活用用途をカテゴライズする事で地震計の様々な使い方を体系化し、日本の地震防災技術を国際社会へ広める活動を行っています。



地震監視装置 TM-0013-SW ＆ SW-52ST

© IMV Inc.

新製品「振動診断ユニット VD-unit」をリリース

VD-unitは、PLC（プログラマブル・ロジック・コントローラ）と株式会社エニイワイヤ社の省配線システムAnyWireASLINKを介した双方向通信を実現し、今まで難しいとされていた生産設備機械(省力化機械等)の振動を高度に監視する次世代の状態監視ユニットです。

従来のアナログ信号出力や警報接点に依存するシステムとは異なり上位のPLCとの連携により、**これまで監視が困難であった設備機械に対しても最適な状態監視を行うことが可能となりました。**設備機械の重要度に応じて柔軟に監視条件を設定できることが最大の特長で、自動で最適な閾値を導出します。PLCで制御可能で、初期導入や機械のメンテナンス作業が大幅に効率化されます。

機械設備の異常を早期に検知することで設備の突発停止を未然に防ぎ、生産性の向上および資源の効率的な利用を促進し、持続可能な社会実現に貢献します。



振動診断アンプ　CP-9011-AL

センサヘッド　VP-8021C-T

© IMV Inc.

IMV CORPORATION

事前にIMV株式会社の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止致します。
本資料に掲載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。
本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は公表時点で入手可能な情報に基づいており、
将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

IMV株式会社　経営戦略室

Eメール
info-ir@imv-corp.com

IR情報
https://we-are-imv.com/about/ir/

© IMV Inc.